平成 20、21 年度
中期目標の達成状況報告書
（別添資料）

平成２２年６月

徳島大学

目　　次

資料１－１－１　平成 20, 21 年度における教育 GP 等の実施一覧 1
資料１－２－１　「ヒューマンコミュニケーション」関連学生・関係者アンケート結果 2
資料１－２－２　「地域社会人ボランティアを活用した教養教育」新聞記事 2
資料１－２－３　「地域社会人ボランティアを活用した教養教育」アンケート結果 2
資料１－２－４　「高齢社会を担う地域育成型歯学教育」外部評価委員の評価 3
資料１－２－５　平成 19～21 年度の共通カリキュラム比較表 3
資料１－２－６　「SUMMER PROGRAM 2009 Health Bioscience Course」のプログラム 4
資料１－２－７　先端技術科学教育部 倫理観・国際観育成科目 4
資料１－２－８　「技術経営特論」「企業行政演習」の授業評価アンケート結果 4
資料１－２－９　医療系クラスター構成図 5
資料１－２－10　医療系クラスターによる月例セミナーの実施状況 5
資料１－２－11　「2009 Tokushima Bioscience Retreat」参加者アンケート結果 5
資料１－３－１　統一化後のシラバス(例示) 6
資料１－３－２　Learning Path Finder アクセス数 6
資料１－４－１　現代 GP「豊饒な吉野川を持続可能とする共生環境教育」に対する新聞報道 6
資料１－４－２　現代 GP「豊饒な吉野川を持続可能とする共生環境教育」の実施報告を聞いて 7
資料１－５－１　学内施設等の共用スペース，共用化率の推移 7
資料１－５－２　常三島地区における講義室等利用件数の推移 7
資料１－６－１　徳島大学平成 20 年度全学 FD 実施計画 8
資料１－６－２　2008 年度・2009 年度徳島大学全学 FD 推進プログラムの実施状況 8
資料１－７－１　入学料免除及び授業料免除の取扱いについて 9
資料１－７－２　第２回大学院生生活実態調査報告 9
資料１－７－３　徳島大学ゆめ奨学金実施規則 10
資料１－７－４　平成 21 年度徳島大学ゆめ奨学金給付者数 10
資料１－７－５　日亜特別待遇奨学生(日亜特待生)制度実施要領 11
資料１－８－１　徳島大学スキルス・ラボ概要 11
資料１－８－２　平成 21 年度スキルス・ラボ利用状況 12
資料１－８－３　「チーム医療入門」2009 年度　学生による自己評価結果 12
資料１－９－１　保健学科・保健科学教育部の教育体系 13
資料１－９－２　保健学科・保健科学教育部　取得可能免許・資格 13
資料１－９－３　保健学科・保健科学教育部　免許・資格取得者数（平成 20 年度） 13
資料１－９－４　保健科学教育部入学状況 14
資料１－10－１　寮の改修等に関する予算執行状況 14
資料１－10－２　晨鐘寮・藍香寮・友朋寮からの要望事項等についての実施状況(平成 20, 21 年度) 14
資料１－11－１　英語による大学院工学教育コース（博士前期・後期課程）の学生募集要項 15
資料１－11－２　先端技術科学教育部ダブルディグリ，英語コース入学生数 15
資料２－１－１　パイロット事業支援(研究支援プログラム)の推進により獲得した外部資金獲得状況一覧 16

資料２－１－２　重点的に取り組む領域別研究業績 16
資料２－１－３　健康・医療クラスター構想 17
資料２－１－４　徳島大学糖尿病臨床・研究開発センター規則 17
資料２－２－１　第１期中期計画期間における研究関連施設の改善（改修等面積）の推移 18
資料２－２－２　医学基礎Ｂ棟利用者満足度アンケート調査結果 18
資料２－３－１　徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部総合研究支援センター規則 19
資料２－３－２　総合研究支援センター機器使用計算表 19
資料２－３－３　平成２１年度　共用機器使用状況総括表 19
資料２－４－１　平成 20, 21 年度任用学長裁量ポストプロジェクト一覧 20
資料２－５－１　EDBAssistance の特徴 21
資料２－５－２　PubMed を参照して論文情報を登録する方法 21
資料２－６－１　疾患ゲノム研究センターの組織 22
資料２—６－２　疾患ゲノム研究センターの研究業績 22
資料２－６－３　疾患酵素学研究センターの共同研究 23
資料２－７－１　第１期中期計画期間における環境防災研究センターの活動状況の推移 23
資料２－７－２　平成 20 年度及び 21 年度における環境防災研究センターの特徴的な取組 24
資料２－８－１　平成 20 年度附属図書館改修工事概要 24
資料２－８－２　附属図書館利用者アンケート・懇談会で寄せられた意見・要望一覧 25
資料２－８－３　附属図書館 2009 年度アンケート結果概要 25
資料２－８－４　附属図書館学外者利用統計 25
資料２－８－５　学生用図書の整備状況 26
資料２－８－６　電子図書館的機能の充実の推移 26
資料２－８－７　附属図書館における展示会及び講演会開催一覧（平成 21 年度） 26
資料３－１－１　TPAS-Net 概要 27
資料３－１－２　TPAS-Net 年間利用者数等 28
資料３－１－３　地域イノベーション創出共同体形成事業 28
資料３－２－１　国立大学法人徳島大学シーズ集 2009 29
資料３－２－２　譲渡技術移転実績 29
資料３－２－３　産業・技術・人的交流協力に関する協定書 30
資料３－２－４　韓日財団との協定締結に係る新聞記事 30
資料３－２－５　国立大学法人徳島大学シーズ集 2009（英語版） 30
資料３－２－６　ロシアにおいて特許登録した本学の発明 31
資料３－３－１　卒業留学生同窓会(中国)記事, 卒業留学生同窓会(韓国)記事 31
資料３－３－２　第５回国際展開推進シンポジウムのプログラム 31
資料３－３－３　Web 版徳島大学卒業留学生同窓会名簿（卒業留学生データベース） 32
資料３－３－４　国際センター組織図 32
資料３－３－５　国際センター拡大スタッフ会議開催通知 33
資料３－３－６　国際プランナーによる平成 21 年度主要業務のまとめ 33

資料１－１－１　平成 20, 21 年度における教育 GP 等の実施一覧

プログラム名		備　　考
○現代的教育ニーズ取り組み支援プログラム（現代 GP）		
18～20 年度	医療系学生の保育所実習による子育て支援（医学部・統合医療教育開発センター）	参加学生数 19 年度 165 名, 20 年度 165 名
18～20 年度	豊穣な吉野川を持続可能とする共生環境教育（総合科学部）	参加学生数 19 年度 47 名 開講数4, 20 年度 95 名 開講数4
○大学教育の国際化推進プログラム・戦略的国際連携支援		
17～21 年度	複数学位を与える国際連携大学院教育の創設（大学院先端技術科学教育部）	
○地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム（医療人 GP）		
18～20 年度	医療の現場と直結した薬剤師養成教育の実践（薬学部）	
○派遣型高度人材育成協同プラン		
18～21 年度	経営センスを有するπ型技術者の協働育成（大学院先端技術科学教育部）	
○がんプロフェッショナル養成プラン		
19～21 年度	中国・四国広域がんプロ養成プログラム（徳島大学大学院）	
○戦略的大学連携支援事業		
20～21 年度	「四国の知」の集積を基盤とした四国の地域づくりを担う人材育成（u ラーニングセンター等）	
20～21 年度	「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」による大学の教育力向上（大学開放実践センター）	
○大学教育の国際化加速プログラム・国際共同・連携支援（交流プログラム開発型）		
20～21 年度	英語力を基礎とする新国際化教育プログラム（国際センター）	
○大学教育の国際化加速プログラム（長期海外留学支援）		
20 年度	徳島大学国際化ポリシーを基にした国際的人材育成（国際センター）	
○質の高い大学教育推進プログラム（教育 GP）		
20～21 年度	高齢社会を担う地域育成型歯学教育（歯学部）	平成 20 年度受講生 26 名 開講数1, 平成21年度受講生 316 名 開講数6
20～21 年度	地域社会人ボランティアを活用した教養教育（全学共通教育センター）	平成 21 年度の授業開講数は前期9, 後期9（計 18 授業）, 社会人ボランティアの延べ参加人数は前期 37 名, 後期 33 名
○社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム		
20～21 年度	既卒薬剤師のキャリアアップを目指した教育支援プログラムの構築（薬学部）	
○組織的な大学院教育改革推進プログラム		
21～23 年度	医療系クラスターによる組織的大学院教育（医科学教育部）	平成 21 年度大学院リトリート受講生数 66 人 大学院リトリート開講数6
○大学病院連携型高度医療人養成推進事業		
21～25 年度	四国本州メディカルブリッジ高度医療人養成-地域医療を担う次世代医師の育成と定着を目指して（病院）	
○周産期医療環境整備事業		
21 年度	（院内助産所等整備）院内助産システムを担うエキスパート助産師育成（病院）	
21～25 年度	（人材養成環境整備）魅力と働き甲斐の創生による周産期医療再生（病院）	
○教育研究高度化のための支援体制整備事業		
21 年度	PMO を活用した教育研究支援組織の構築（HBS 研究部）	
○知的クラスター創生事業		
21 年度	徳島　健康・医療クラスター	

（出典：総務部企画・評価課調べ）

資料１－２－１ 「ヒューマンコミュニケーション」関連学生・関係者アンケート結果

授業に対する評価（H19：165 名　H20：165 名）

	H19		H20	
	そう思う	ややそう思う	そう思う	ややそう思う
Q1.この授業を選択してよかった	90%	9%(計99%)	70%	22%(計 92%)
Q2.実習は満足できた	82%	14%(計 96%)	75%	23%(計 98%)
Q3.実習での学びは大きかった	90%	9%(計99%)	79%	17%(計 96%)
Q4.この授業は改めて基本的マナーを身につけることの一助になっている	79%	19%(計 98%)	77%	21%(計 98%)
Q5.この授業はホスピタリティ・マインドへの気づきの一助になっている	86%	12%(計 98%)	75%	21%(計 96%)
Q6.この授業は役立ち感を実感し自己肯定感の芽を育むことの一助になっている	57%	32%(計 89%)	44%	43%(計 87%)
Q7.この授業はコミュニケーション力を高めることの一助になっている	80%	17%(計 97%)	72%	26%(計 98%)
Q8.この授業はこころの癒しや元気、やる気を育む一助になっている	77%	17%(計 94%)	68%	32%(計 100%)
Q9.この授業は自分を振り返る機会になっている	78%	20%(計 98%)	73%	25%(計 98%)
Q10.この授業を通して自分自身の生き方や普段の人間関係に変化があった	65%	27%(計 92%)	54%	40%(計 94%)
Q11.この授業は仲間のよいところが見える	80%	15%(計 95%)	75%	21%(計 96%)
Q12.この授業は仲間作りに役立っている	67%	26%(計 93%)	70%	30%(計 100%)

平成 19年 20年ともに、授業に対して学生の高い肯定的な評価を得られている。

（出典：平成 20 年度「ヒューマンコミュニケーション関連学生・関係者アンケート結果」より抜粋）

資料１－２－２ 「地域社会人ボランティアを活用した教養教育」新聞記事

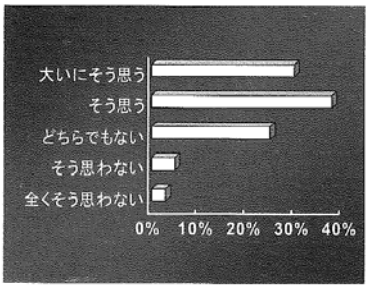
徳島大学が、一般教養の授業に地域の社会人を招くユニークな取り組みを始めている。会社を退職した団塊の世代らに豊富な社会経験や教養を披露してもらい、学生のコミュニケーション力や学習意欲を育てることが目的。地域の人材を生かした新しい教養教育として注目されている。

（出典：平成 21 年 2 月 28 日徳島新聞 18 面　記事より一部抜粋。 記事総文字数：1725 文字）

資料１－２－３ 「地域社会人ボランティアを活用した教養教育」アンケート結果

【学生に対するアンケート】
（平成 20 年 7 月）

地域社会人が授業に参画することは良いと思いますか？



授業評価アンケートの「総合的満足度」
（5 段階評価，5.0 点満点の平均値）

- 教養科目群（平成 18 年前期）　3.6
- 社会性形成科目群（平成 20 年前期）　4.4

【地域社会人ボランティアへのアンケート】（平成 20 年 7 月）

自由記述より

- これからの新しい社会に最もふさわしい
- 社会人ボランティアは、自ら学ぶ
- 地域でインクルーシブ教育促進が図れる
- ふれあいコミュニケーションは最高の学習方法
- 共に学び考え話し合うのは、新方向性の力
- 学生さんと学ぶのはユニークな試み

（出典：「社会人ボランティアを活用した教養教育_報告書」より抜粋）

資料１－２－４ 「高齢社会を担う地域育成型歯学教育」外部評価委員の評価

外部評価委員：中村千賀子（東京医科歯科大学），渡部芳彦（東北福祉大学），寺嶋吉保（徳島大学）

２） 外部評価（東北福祉大学　渡部 芳彦）

徳島大学歯学部教育 GP の取り組みについて

人間力の定義は多様だが、「社会で活躍していくための人としての総合的な能力」とすれば、それは家庭や地域で長期的・段階的に育まれる部分が大きい。しかしながら、現代では生活様式や家族構成の変化、地域社会との接点の減少等により、人間力育成の場が著しく減少している。その様なことから大学１～２年次の学生においては、学力では測れぬ人間力の発達度合いに大きな差異がある可能性がある。また、既に年齢相応の人間力を備えているとしても、それを吟味したり、そこから発展する医療人への視座を得るための時間を持つことは極めて有用である。

徳島大学歯学部では「人間力の向上」と「医療人のとしての自覚」を目指した地域育成型歯学教育を展開しており、この体験学習に取り組んだ学生の多くが、「聴く態度」や「コミュニケーション力」が向上したと自己評価している。具体的には、シンポジウムにおいて口腔保健学科１年の池淵美里さんが述べたような体験（「パートナーと会話が続かないのでは」という心配や、「楽しませるのではなく自分も楽しむことも大切」という気付き）を通して、個々の学生が悩み・気付き、人間力を養ってきたと考えられる。

高齢者における口腔ケアの潜在的ニーズは大きく多様である。今後の医療人に求められるのは、単に医療機関に来院する患者への配慮ではなく、健康障害のリスクの高い人の生活に関わる中で、潜在的ニーズを拾い上げ、多職種連携で改善に結び付けることであろう。

徳島大学における地域育成型歯学教育の報告を通して、この取組みが、今年度までにおいて意図する成果を確実にもたらしていると評価した。今後は、実践的スキルを備えるトレーニング、この教育で得た新しい能力を十分に発揮できる現場（雇用）の創出、強力かつきめ細かなバックアップで将来輩出する人材を支援することを通して、理想の地域社会を大学教員も責任を持って構築していくことが重要となるであろう。

（出典：「高齢化社会を担う地域育成型歯学教育　教育 GP 事業報告書」より渡部氏の評価文を引用）

資料１－２－５ 平成 19～21 年度の共通カリキュラム比較表

蔵本地区　大学院　教育部共通カリキュラム科目

H22.3.12　医療教育開発センター作成

	H 19	H 20	H 21	備　　考
全専攻系共通カリキュラム科目	生命倫理入門	生命倫理入門	生命倫理入門	
	臨床心理学	臨床心理学	臨床心理学	
	社会医学・疫学・医学統計入門	社会医学・疫学・医学統計入門	社会医学・疫学・医学統計入門	
	英語論文作成入門	英語論文作成入門	英語論文作成入門	
		心身健康と環境ストレス	心身健康と環境ストレス	H20 年度開設
			生命科学の研究手法	H21 年度開設
各専攻系間共通カリキュラム科目	ヒューマンサイエンス（形態と機能学）	ヒューマンサイエンス（形態と機能学）	ヒューマンサイエンス（形態と機能学）	
		臨床薬理学入門		H18 年度臨床薬理学から改名、隔年開講
	微生物・免疫学入門実習	微生物・免疫学入門実習	微生物・免疫学入門実習	
	臨床医科学入門	臨床医科学入門	臨床医科学入門	
	プロテオミクス概論	プロテオミクス概論	プロテオミクス概論	
	ゲノム創薬特論	ゲノム創薬特論	ゲノム創薬特論	
	ビタミン・栄養	ビタミン・栄養		H21 年度廃止
	健康食品・漢方	健康食品・漢方	健康食品・漢方	
	臨床腫瘍学入門	臨床腫瘍学入門	臨床腫瘍学入門	
科　目　数	12	14	13	

（出典：平成 21 年度医療教育開発センター作成資料より抜粋）

資料１－２－６ 「SUMMER PROGRAM 2009 Health Bioscience Course」のプログラム

LECTURE PROGRAM （「国際統合医療特論」の講義内容）

Date		Time	Subject	Speaker	Location
18th August	Tue	Cell and Tissue Culture (Graduate School of Oral Sciences)			
		8:50 ~ 10:20	From Basic to Clinic	Prof. Tatsuji HANEJI	Lecture Room1 (Basic Research Building-B 1F, Medical School)
		10:30 ~ 12:00	Application of cell culture experiments to oral Sciences	Prof. Toshihiko NAGATA	
		13:30 ~	Lab Tours		in Kuramoto Campus
19th August	Wed	Antibody Experiments in Biochemistry (Graduate School of Nutrition and Bioscience)			
		8:50 ~ 10:20	1) Western blotting 2) Immunoprecipitation experiment	Associate Prof. Yutaka TAKETANI	Lecture Room1 (Basic Research Building-B 1F, Medical School)
		10:30~12:00	3) ELISA and RIA	Prof. Kenichi MIYAMOTO	
		Immunohistochemistry (Graduate School of Medical Sciences)			
		13:30 ~ 15:00	1) Basic techniques for immunological researches	Prof. Kazunori ISHIMURA Associate Prof. Kousuke ONO	Lecture Room1 (Basic Research Building-B 1F, Medical School)
		15:10 ~ 16:40	2) Recent advances of immunological researc	Associate Prof. Michihiro NAKAMUR	
20th August	Thu	Protein Experiments (Institute for Enzyme Research)			
		8:50 ~ 10:20	1) Expression and Purtfication of Recombinant Proteins	Assist. Prof. Kazuko YORITA	Lecture Room1 (Basic Research Building-B 1F, Medical School)
		10:30 ~ 12:00	2) Characterization and Proteomics Analysis 3) Crystallization and X-ray Crystallography	Prof. Kiyoshi FUKUI	
		13:50 ~	Tour to Bio Industry in Tokushima area		
21st August	Fri	Gene Analysis Techniques1 (Graduatte School of Pharmaceutical Sciences)			
		8:50 ~ 10:20	1) mRNA detection by Northern blotting and QRT-PCR/real-time PCR 2) in situ hybridization	Prof. Koji ITO	Lecture Room1 (Basic Research Building-B 1F, Medical School)
		10:30 ~ 12:00	3) Assessment of promoter region by luciferase assay and gel shift assay 4) siRNA, its principle and protocol	Associate Prof. Hiroyuki MIZUGUCHI Prof. Hiroyuki FUKUI	
		Gene Analysis Techniques2 (Institute for Genome Research)			
		13:30 ~ 15:00	1) Genome analysis of autoimmune diseases	Prof. Taku OKAZAKI	Lecture Room1 (Basic Research Building-B 1F, Medical School)
			2) SNP analysis for identifying disease susceptibility in human	Prof. Mitsuo ITAKURA	
		15:00 ~ 16:40	3) Gene expression profiling and cancer drug discovery	Prof. Toyomasa KATAGIRI	
			4) Real-time monitoring of endoplasmic reticulum stress signaling	Prof. Seiichi OYADOMARI	
		17:00 ~	Commencement Ceremony		

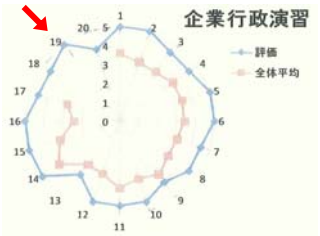
（出典:「SUMMER PROGRAM 2009 Health Bioscience Course プログラム」より抜粋）

資料１－２－７ 先端技術科学教育部 倫理観・国際観育成科目

博 士 前 期 課 程	博 士 後 期 課 程
ニュービジネス特論 技術経営特論 知的財産論 プレゼンテーション技法(M) 長期インターンシップ(M) 企業行政演習(M) 国際先端技術科学特論1 国際先端技術科学特論2	ニュービジネス特論 技術経営特論 知的財産論 プレゼンテーション技法(D) 生命科学 長期インターンシップ(D) 企業行政演習(D) 国際先端技術科学特論1 国際先端技術科学特論2

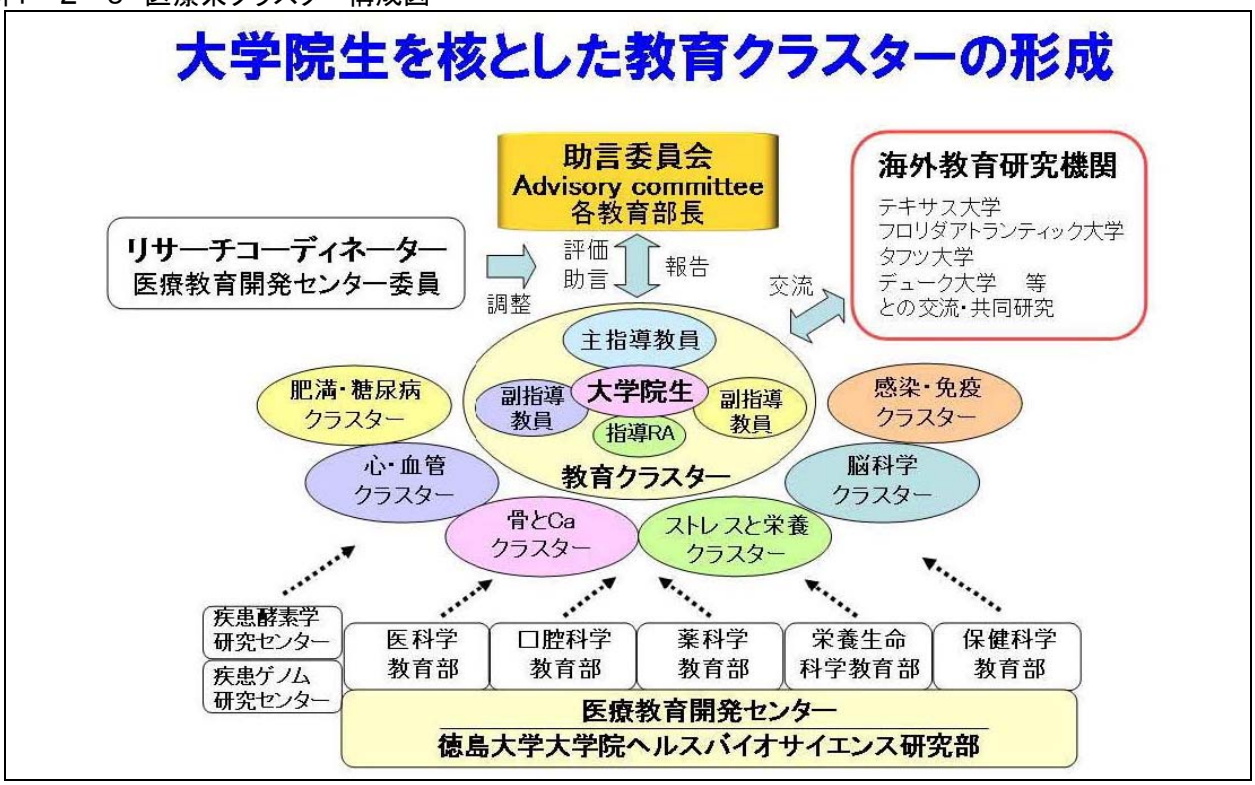
（出典:「先端技術科学教育部シラバス」より抜粋）

資料１－２－８ 「技術経営特論」「企業行政演習」の授業評価アンケート結果

技術経営特論	さらに本科目が「倫理観」と「国際感覚」の涵養に関わる科目との認識から，下表のような設問 No. 19, 20 に対するアンケートを実施した．その結果，No. 19「倫理観」= 4. 7，また No. 20「国際感覚」= 3. 9 となり，受講生はこの授業を通して特に「倫理観」を養成できたと感じていることが分かった．
企業行政演習	1) No. 1~17 では，すべて全体平均を大きく上回っており，かつ両者の形状は類似している． 2) No. 18「総合評価」は 4. 5 であり学生の満足度はかなり高いと考えられる．またこのことは評点の割合を示す棒グラフにおいて評点 4 以上が 95%強であることからも推測できる． 3) No. 19「倫理観」と No. 20「国際感覚」の評点から，受講生はこの授業を通して特に「倫理観」を養成できたと感じている． 

（出典:「国際観・倫理観育成科目「技術経営特論」「企業行政演習」の授業評価アンケート結果」より抜粋）

資料１－２－９　医療系クラスター構成図



（出典：徳島大学ホームページより抜粋）

資料１－２－10　医療系クラスターによる月例セミナーの実施状況

開催年月日	テーマ数	医学		歯学		薬学		栄養学		保健学		酵素		ゲノム	
		学生	学生以外	学生	学生以外	学生	学生以外	学生	学生以外	学生	学生以外	学生	学生以外	学生	学生以外
4月27日	6	5	15	5	7	8	8	1	2	1	0	2	0	0	0
5月25日	4	0	5	2	5	1	8	6	3	0	0	0	0	0	0
6月29日	6	0	21	2	6	1	3	1	4	1	1	0	0	0	0
7月27日	6	2	10	0	8	0	1	4	1	0	8	0	0	0	0
9月28日	6	1	10	3	7	0	0	3	0	0	2	0	0	0	0
10月26日	6	2	9	2	6	1	4	3	5	1	9	0	0	0	0
11月30日	5	2	3	3	5	3	10	0	0	1	3	0	0	0	0
1月25日	5	2	10	2	9	0	2	3	0	0	3	0	0	0	0
2月22日	5	0	6	0	8	0	1	3	13	0	2	0	0	0	0

（出典：「月例セミナー実施報告」より開催年月日，テーマ数，参加人数を集計）

資料１－２－11　「2009 Tokushima Bioscience Retreat」参加者アンケート結果

回答数 41 名（学生 33　教員8）

Q1.他の分野の人と交流ができたか	よくできた←	17	21	2	1	0	→できなかった
Q2.日頃の研究の成果が発表できたか（学生のみ）	よくできた←	5	21	4	2	0	→できなかった
Q3.開催地は？	とてもよかった←	26	14	1	0	0	→よくなかった
Q4.宿泊ホテルは？	とてもよかった←	25	14	2	0	0	→よくなかった
Q5.参加費は？（開催時　学生 2000 円，教員 5000 円）	高い←	0		35		6	→安い
Q6.研究会発表は？	とてもよかった←	17	22	2	0	0	→よくなかった
Q7.懇親会，バーベキューは？	とてもよかった←	21	19	0	0	0	→よくなかった
Q8.研究奨励制度について	とてもよい←	22	11	6	0	0	→よくない
Q9.特別賞（学生投票）について	とてもよかった←	24	11	5	0	0	→よくなかった
Q10.よかったもの（複数回答）	（省略）						
Q11.来年の開催について	ぜひ開催←	28	8	5	0	0	→開催しない

（出典：「2009 Tokushima Bioscience Retreat 実施報告書」より抜粋）

資料１－３－１　統一化後のシラバス(例示)

全学共通教育 (2009)) 後期 (経間コース)-【基礎科目群】-《基礎物理学》

基礎物理学 (Basic Physics)
基礎物理学 f・力学概論 (Mechanics)

(工 (知))
日置 善郎 - 教授
2 単位　後期　金　7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎物理学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎物理学』)

【授業の目的】 力学は現代科学の基礎である物理学の出発点である．この講義の目的は，その力学の基本的な構成をわかりやすく解説することである．

【授業の概要】 力学を記述するために必要なベクトルおよびその微分積分を整理し，力学の基礎である運動の法則を学ぶ．次にその応用を通じて理解を深め，力学的エネルギー保存則へと話を進める．続いて，角運動量とそれを土台とした惑星の運動を扱ったのち，より現実的な題材である多体系および剛体の力学の初歩を解説する．

【キーワード】 ベクトル，運動の法則，運動方程式，運動量保存則，力学的エネルギー保存則，角運動量保存則，剛体

【先行科目】 『基礎数学/ 微分積分学 I』(1.0)，『高大接続科目/ 数学』(1.0)，『高大接続科目/ 物理学』(1.0)

【関連科目】 『基礎数学/ 微分積分学 II』(0.5)

【到達目標】
1. 運動方程式を理解し，その簡単な応用が出来るようになること．
2. 運動量，力学的エネルギー，角運動量とその保存則について理解すること．
3. 多体系および剛体の運動を扱う基本的な方法を理解すること．

【授業の計画】
1. 物理量とベクトル
2. 運動の法則
3. 運動量保存則・力積
4. 自由落下 (空気抵抗のない場合)
5. 自由落下 (空気抵抗がある場合)
6. 放物運動
7. 単振動
8. 仕事とエネルギー
9. 偏微分と全微分
10. 力学的エネルギー保存則
11. ベクトル積 (外積) と角運動量
12. 角運動量保存則
13. 惑星の運動
14. 多体系と剛体の力学
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 自製テキスト使用 (詳しい説明は第 1 回目に行う)

【成績評価の方法】 レポート - 小テスト - 受講態度 - 期末試験を総合して判定する．詳しい説明は第 1 回目の講義において行う．なお，言うまでもないことだが，講義中の私語 - 携帯電話の使用などは厳禁する．これが守れない受講者は，その時点までの成績には一切無関係に，その場で再受講とする．

【再試験の有無】 有 (但し，不合格者全員が自動的に対象となる訳ではない)

【受講者へのメッセージ】 高校で物理を履修していれば理解しやすいことは間違いないが，しかしそのような予備知識は前提としない．但し，微分 - 積分の基本については，全員既習として話を進める．何らかの理由で，微積分の勉強をしていない学生は，必ず前もって自習しておくこと．

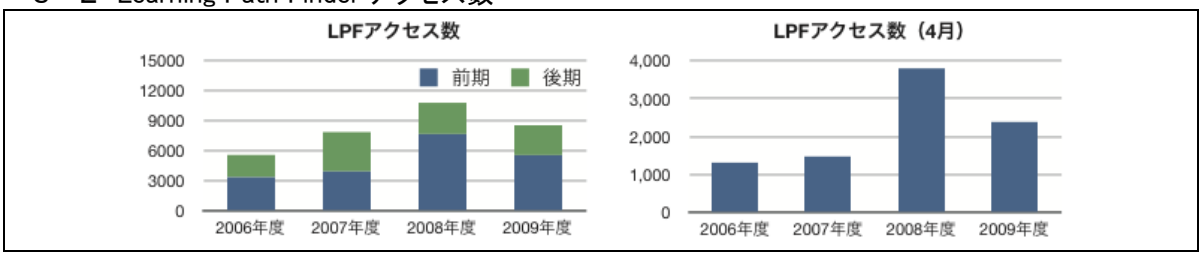
【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185627

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】
⇒ 日置 (総合科学部 3 号館 1N04 号室, 088-656-7234, hioki@ias.tokushima-u.ac.jp) Mail (オフィスアワー: 火曜日 11:50~ 13:00 (質問などは在室中ならいつでも可))

— 688 —

(出典:「平成 21 年度　全学共通教育授業概要」より抜粋)

資料１－３－２　Learning Path Finder アクセス数



(出典:全学共通教育，総合科学部，工学部の講義室予約システムデータより作成)

資料１－４－１　現代 GP「豊饒な吉野川を持続可能とする共生環境教育」に対する新聞報道

掲載年月日	報道機関	掲載面	タ　イ　ト　ル	文字数
18 年 4 月 29 日	徳島新聞 Web		花のパッチワーク始動　吉野川の善入寺島、ヒマワリ種まき	156
18 年 7 月 28 日	徳島新聞	朝刊 26	徳大の 2 学部選ぶ　文科省公募、全国で 112 件	737
19 年 2 月 20 日	徳島新聞	朝刊 29	吉野川流域の歴史・文化探る	404
19 年 9 月 14 日	徳島新聞	朝刊 26	「ごみゼロ」へイベント	939
19 年 11 月 10 日	徳島新聞	朝刊 27	森林再生など討議　徳島大学公開セミナー　市民ら 80 人参加	388
20 年 1 月 18 日	徳島新聞	朝刊 25	徳大　連続公開講座始まる	524
20 年 2 月 11 日	徳島新聞	朝刊 8	徳島大　連続公開講座	1555
20 年 2 月 12 日	徳島新聞	朝刊 10	徳島大　連続公開講座	1821
20 年 6 月 18 日	徳島新聞	朝刊 3	徳島大　社会創世学科を新設　来年度環境共生など 3 コース	898
20 年 8 月 26 日	日刊工業新聞	朝刊 25	流域周辺の歴史と文化探る　全学部生が体験学習	1027
20 年 12 月 19 日	徳島新聞	朝刊 3	徳島大総合科学部　博士課程を新設へ　専攻　地域科学と臨床心理学	765
21 年 1 月 21 日	徳島新聞	朝刊 3	徳大総科部大学院に期待	421
21 年 3 月 1 日	徳島新聞	朝刊 31	吉野川との共生探る　徳大で環境フォーラム	370
21 年 3 月 3 日	徳島新聞	朝刊 27	吉野川との共生を提言　徳島大公開講座	369

(出典:各種新聞記事より抜粋)

資料１－４－２　現代 GP「豊饒な吉野川を持続可能とする共生環境教育」の実施報告を聞いて

外部評価

現代ＧＰ「豊饒な吉野川を持続可能とする共生環境教育」の実施報告を聞いて

立教大学教授（ＥＳＤ研究センター長）
NPO法人持続可能な開発のための教育の10年推進会議代表理事
阿部　治

徳島大学総合科学部の現代GP「豊饒な吉野川を持続可能とする共生環境教育」の取組は、具体的な課題である吉野川の流域環境保全という地域にとって重要な課題を取り上げ、地域の教育力を活かしたプログラムである。計画書から若干の変更は見られるものの、十分申請書の内容は達成できたものと考えられる。

発展的環境総合プログラムの中核の「環境科学プログラム」に関しても工夫が見られる。水質調査は環境アセスメントにおいて重要である。「流域圏環境物質論」として既存の「環境科学プログラム」科目に属さない、「分析化学II」「物質科学基礎実験IV」「物質科学実験III」にて、水質測定の基本原理の教授と、実習としての水質測定プログラムを分割して行い、「とくしま水質MAP」を作成したことは、環境科学の基本であり非常に評価できる。また、「地域調査法」や「地域調査実習」などにおいて、90分ｘ2コマの授業を通年行う中で、本GPにより、体験学習を日帰りも含め、4回以上行うことが出来たことは、単なる体験学習ではなく、しっかりした知識に基づいた体験学習であり、教育効果が十分見込まれる。特に評価すべきは、「選定理由」に書かれている「国連のミレニアム生態系評価」の中で述べられている「生態系サービス」において、「供給サービス」「調整サービス」「文化サービス」等の概念をきちんと理解し取り上げたことである。人類の幸福としてのヒューマン　ウェルビーイングは、物質的であったり直接的であったりする「供給サービス」や「調整サービス」が重要視されがちであるが、「健康」で「良好な社会的関係」を築くには文化・歴史・習慣等の「文化サービス」が最も重要な要因となってくる。そこで先人の足跡をたどり、現在を見つめる歴史学や文化方言にも目を向けている点は、良いことである。特に資源の持続的利用と関連の深い伝統的知や民衆知はＥＳＤの主要テーマであるが、その意味で方言の研究において、学生自身が調査・解析し、毎年報告書を出したことの教育効果は大きく非常に評価できる。

一方、導入教育としての「総合人間学プログラム」において、工夫と苦労の後が見てとれるが、広がりに若干欠ける点が気になる。多くの場合、一部の熱心な教員は頑張るものの、その他の教員の協力がえられない場合などによく見られる現象である。そのことから総合科学部教員が一丸となっていない表れでは（？）と想像できる。また、これだけ良いプログラムを構築しながら、他学部との共同がなされていないのは、大変残念である。大学全体が率先して取り組めば、更に良いものになろう。また、講演に赴き気が付いたことは、徳島においては地元からの要望があるのにもかかわらず、それを十分にくみ上げていないことである。この不況と環境重視の時代、一次産業の役割を重視し、循環と生物多様性を基調とした地域振興が行われるべきであり、その手法として、地域の知と人材育成の拠点である大学が今こそESDを掲げ地方からの発信を行うべきである。

徳島大学総合科学部は、人文科学・社会科学・人間科学を行う人間社会学科と、自然科学を行う自然システム学科の２学科から成っており、すべての分野の教員がいると聞いている。まさに、ESDを行うための学部と考えられる。日本のみならず世界の見本となるESD事例を発信できる素地があると考えられる。そこで、徳島大学において、学部および大学全体が一丸となり地域との交流の下、世界の範となるESD事例を構築・発信できることを期待している。

（出典:「現代 GP「豊穣な吉野川を持続可能とする共生環境教育」の外部評価報告書より抜粋）

資料１－５－１　学内施設等の共用スペース，共用化率の推移

（単位：m^2）

年度	共通的スペース	競争的スペース	計	蔵本＋南常三島　建物延面	共用化率
平成17年度	11,532	3,368	14,900	277,341	5.37%
平成18年度	27,085	4,680	31,765	296,301	10.72%
平成19年度	29,978	5,038	35,016	295,253	11.86%
平成20年度	32,956	5,869	38,825	295,232	13.15%
平成21年度	35,066	5,968	41,034	295,776	13.87%

（出典:「共同利用スペースの推移　施設実態報告」より抜粋）

資料１－５－２　常三島地区における講義室等利用件数の推移

Web講義室予約システムによる講義室等利用件数調べ（常三島地区）

		2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	備考
全学共通教育	利用件数				19,421	2008年度共通教育5号館改修工事，Web予約システムの導入は2009年度より．
	日数				365	
	件数/日				53.2	
総合科学部	利用件数	16,227	16,495	14,924	13,245	2009年度総合科学部１号館改修工事．
	日数	365	365	366	365	
	件数/日	44.5	45.2	40.8	36.3	
工学部	利用件数	41,230	77,222	77,286	88,587	
	日数	259	361	360	364	
	件数/日	159.2	213.9	214.7	243.4	

（出典:全学共通教育，総合科学部，工学部の Web 講義室予約システムの利用予約データを集計）

資料１－６－１　徳島大学平成 20 年度全学 FD 実施計画

FD 推進プログラム	対象者	内容・方法等	開催時期・場所
FDファシリテータ養成研修	各学部FD委員会委員、全学共通教育センターFD担当者及び医療教育開発センター教員とし、各部局FDを企画・実施できる資質形成を図る。	各部局のFDニーズを把握し、学部等FDプログラムの作成・評価の過程を体得する。	6 月 21 日(土)・22 日(日)(1 泊 2 日)・独立行政法人国立淡路青少年交流の家
全学共通教育担当教員初任者研修	共通教育を担当する若手教員及び希望者	共通教育における教授法の検討と研修(教育についての基礎知識、Active learningやStudy skills 育成の手法などのレクチャー、ワークショップ等)を実施。その後、授業参観の機会を提供してもらい、さらに、ビデオ録画した授業をもとにして、大学開放実践センター教員が中心となり授業改善のためのコンサルティングを行う。対象教員の同意を得た場合、授業研究会とし、他の教員との共同研修の機会とする。	随時・授業研究インテリジェントラボ等
共通教育FDとくとくセミナー	共通教育担当者及び希望者	共通教育特有の課題解決を目指してレクチャー、ワークショップ等を行う。テーマは「active learning の手法」「大人数授業の方策」「PPT の使い方」「理系授業の進め方」など。	随時
FDラウンドテーブル	教育改善に関心のある全教職員・学生	日常の教育活動全般に関する情報交換、自己学習促進の方法、教養科目と専門科目の接続・連携、欧米高等教育事情など	アフターファイブ等・授業研究インテリジェントラボ等
徳島大学教育カンファレンス	全学の教職員・学生及び学外の教員	教員等による教育改善の取り組みの発表	
教育の質を向上させるための学生ワーキンググループへの支援と協働			
『大学教育研究ジャーナル』第6号の発行			平成21年3月末

（出典:「徳島大学平成 20 年度全学 FD 実施計画」より抜粋）

資料１－６－２　2008 年度・2009 年度徳島大学全学 FD 推進プログラムの実施状況

	FD 推進プログラム	実施年月日	参加者等
平成20年度	FD ファシリテータ養成研修	平成 20/6/21～22	学部 FD 委員等 13 名, 学外講師等 3 名, 運営メンバー8 名
	全学共通教育担当教員初任者研修	平成 20/9/19～20	教員 4 名, 職員 12 名, 運営メンバー6 名, 学外講師等 3 名, オブザーバ 1 名
	共通教育 FD とくとくセミナー	平成 20/8/29, 9/5, 9/26, 10/3	10 名(8/29), 14 名(9/5), 7 名(9/26), 7 名(10/3)
	FD ラウンドテーブル	平成 20/5/22, 7/4, 11/28 平成 21/3/13	9 名(5/22), 12 名(7/4), 19 名(11/28), 5名(3/13)
	教育の質を向上させるための学生 WG	平成 20 年度中 9 回開催	
	徳島大学教育カンファレンス	平成 21/1/21	口頭発表 19 件, ポスター発表 8 件 参加者学内 98 名, 学外 12 名
平成21年度	FD ファシリテータ養成研修	平成 21/6/27～28	学部 FD 委員等 13 名, T-POD 及び SPOD 東四国 11 名, 学外講師等 4 名, 運営メンバー10 名
	教育力開発基礎プログラム	平成 21/8/10～11	教員 15 名, 大学院生 3 名, 運営メンバー11 名, オブザーバ 1 名
	共通教育 FD とくとくセミナー	平成 21/8/28, 9/4, 9/18, 9/25	13 名(8/28), 8 名(9/4), 13 名(9/18), 18 名(9/25)
	FD ラウンドテーブル	平成 21/5/28, 7/22, 11/13 平成 22/1/22	11 名(5/28), 14 名(7/22), 13 名(11/28), 9名(1/22)
	徳島大学教育カンファレンス	平成 22/3/3	口頭発表 18 件, ポスター発表 9 件 参加者学内 86 名, 学外 13 名

（出典:「2008 年度徳島大学全学 FD 推進プログラムの実施報告」,「2009 年度（同）」より抜粋）

資料１－７－１　入学料免除及び授業料免除の取扱いについて

入学料免除及び授業料免除の取扱いについて（申合せ）

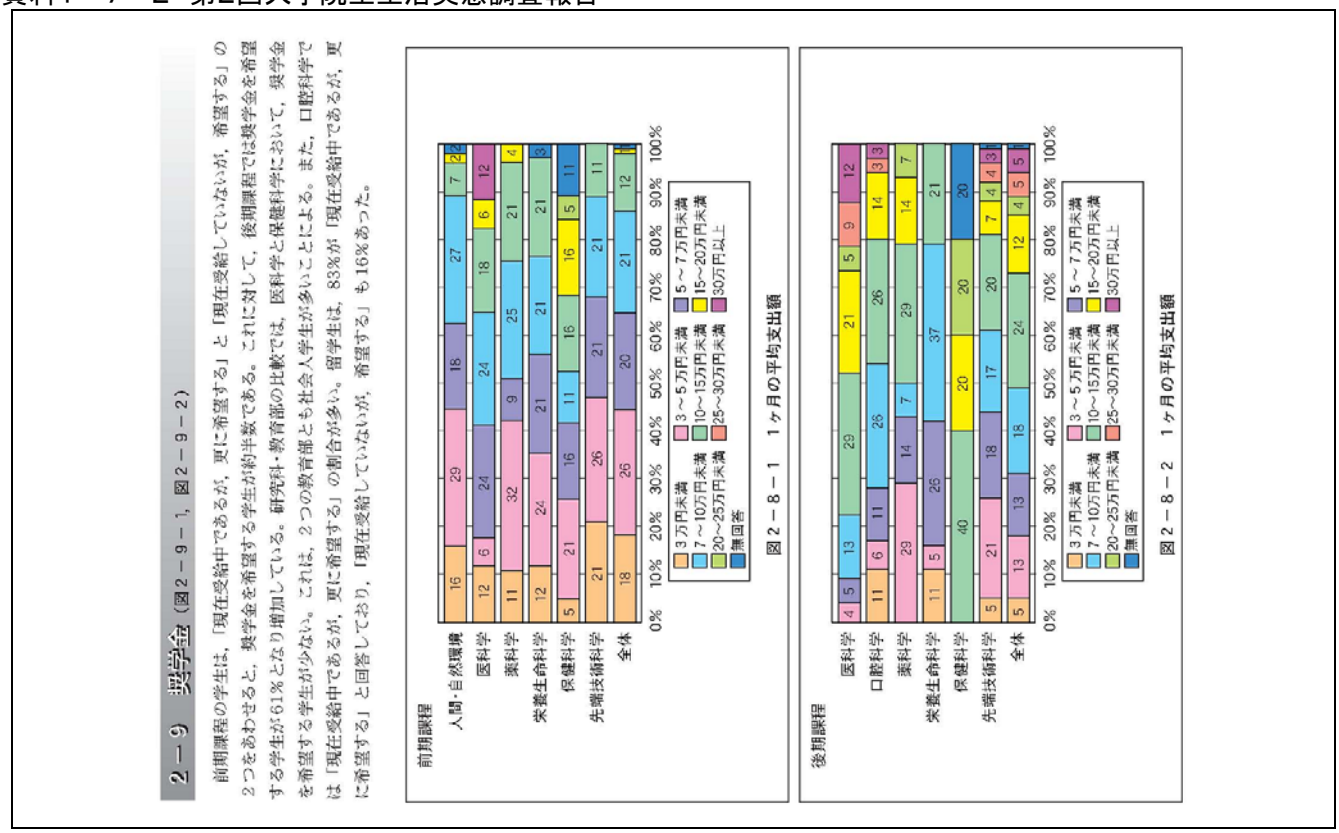
平成19年6月11日一部改正
平成20年5月19日改　　正
学　生　委　員　会

	免除の総額	選　考　方　法	備　考
入　学　料　免　除	・学部に入学する者に係る入学料収入予定額の０．５％に相当する額 ・大学院の研究科・教育部に入学する者に係る入学料収入予定額の４％に相当する額	１）「入学料免除の取扱いについて」（平成１４年１２月２６日付け１４文科高第６６４号高等教育局長通知）に基づき実施することとし，入学料免除の総額の範囲内で，基準適格者の選考順位の上位者から半額免除とし，残額が生じる場合は，残額の範囲内で，選考上位の者から全額免除とする。２）学部生及び大学院生の免除可能額と各々の基準適格者の免除実施可能額に過不足が生じた場合は，調整ができるものとする。 ２）学部生及び大学院生の免除可能額と各々の基準適格者の免除実施可能額に過不足が生じた場合は，調整ができるものとする。	

	免除の総額	選　考　方　法	備　考
授　業　料　免　除	授業料の収入予定額の５．８％に相当する額	「授業料免除の取扱いについて」（平成１５年２月２６日付け１４文科高第７８３号高等教育局長通知）に基づき実施することとし，授業料免除の総額の範囲内で，基準適格者の選考順位の上位者から半額免除とし，残額が生じる場合は，残額の範囲内で，選考上位の者から全額免除とする。	

（出典：平成 20 年 5 月 19 日「入学料免除及び授業料免除の取扱いについて（申合せ）」）

資料１－７－２　第2回大学院生生活実態調査報告



（出典：「第 2 回大学院生生活実態調査報告書」第 2 章 2-9 奨学金より抜粋）

資料１－７－３ 徳島大学ゆめ奨学金実施規則

○ 徳島大学ゆめ奨学金実施規則

平成21年2月24日
規則第79号制定

（趣旨）
第1条 この規則は，徳島大学大学院博士後期課程(医科学教育部及び口腔科学教育部の博士課程を含む。以下「博士後期課程」という。）に在学する学生に対して，授業料に充当する奨学金の給付によって，社会の様々な分野において活躍できる優秀な人材の育成と大学院教育の充実を図るため，徳島大学ゆめ奨学金（以下「奨学金」という。）の実施に関し必要な事項を定めるものとする。

（財源）
第2条 奨学金の財源は，寄附金等の予算を充てるものとする。

（対象者）
第3条 奨学金の給付対象となる者は，博士後期課程に在学する学生のうち，授業料の免除を受けていない者とする。
ただし，国費外国人留学生，外国政府派遣留学生，授業料を相互に徴収しないことを定めた大学間交流協定に基づく外国人留学生，日本学術振興会特別研究員に採用された者，返還義務のない奨学金（授業料の年額以上の金額を給付されている者に限る。）を受けている者及び社会人学生で授業料を会社等が負担している者は給付対象としない。

（奨学金の給付）
第4条 奨学金は，前期及び後期の各学期ごとに給付者を選考し，給付する。 2 奨学金の給付金額は，前期及び後期の授業料の額の半額に相当する額とする。3 奨学金の給付者数は，原則として，各教育部ごとに前条に定める対象者数の7割とする。

（申請）
第5条 奨学金の給付を希望する者は，徳島大学ゆめ奨学金申請書（別紙様式）に必要書類を添付し，所定の期日までに学長に申請するものとする。

（選考）
第6条 選考の基準については，別に定める。

（奨学金の返還義務）
第7条 奨学金の返還義務は課さないものとする。

（事務）
第8条 奨学金に関する事務は，学務部学務課と各教育部事務部が連携・協力して処理する。

附 則
この規則は，平成21年4月1日から施行し，平成21年度の博士後期課程の入学者から適用する。

（出典:「徳島大学ゆめ奨学金実施規則」）

資料１－７－４ 平成 21 年度徳島大学ゆめ奨学金給付者数

教育部名	H21.4.1	前期				平21年度	後期			
	入学者数	対象者数	推薦枠数	推薦者数	給付者数	入学者数	対象者数	推薦枠数	推薦者数	給付者数
総合科学教育部	7	5	3	2	2	7	5	3	3	3
医科学教育部	39	35	24	22	22	47	37	26	23	23
口腔科学教育部	15	13	9	11	11	20	11	8	9	9
薬科学教育部	12	7	5	4	4	14	5	3	4	4
栄養生命科学教育部	7	7	5	5	5	11	8	6	6	6
保健科学教育部	6	6	4	4	4	6	6	4	4	4
先端技術科学教育部	25	11	8	4	4	42	19	13	13	13
合計	111	84	58	52	52	147	91	63	62	62

（出典:「平成 21 年度 前期分 徳島大学ゆめ奨学金 給付者数」，同「後期分」より抜粋）

資料1－7－5　日亜特別待遇奨学生(日亜特待生)制度実施要領

日亜特別待遇奨学生（日亜特待生）制度実施要領

1．目　的

わが国の科学技術政策の基本的な方向として、目指すべき国の姿を「知の創造と活用により世界に貢献できる国」、「国際競争力があり持続的発展ができる国」、「安心・安全で質の高い生活のできる国」とすることが、科学技術基本計画で謳われている。徳島大学工学部及び大学院工学研究科では、この科学技術基本計画に則した教育・研究を行うことによって、21世紀を担う人材育成を行うことを大きな使命としている。そのためには、優れた学生を受け入れ、学習及び研究に専念できるより良好な環境を提供することは、重要な課題の１つである。学生への経済的な支援はこの課題に対する有効な施策であると考えられることから、日亜特別待遇奨学生（日亜特待生）制度と称する奨学生制度を制定する。

本制度は、日亜化学工業株式会社より徳島大学工学部に贈られた奨学寄附金10億円を原資とし、平成17年度から10年間を対象期間として制定した特別待遇奨学生制度であり、徳島大学工学部及び大学院工学研究科に在籍する学生を対象とし、返済の義務を課さない奨学金を給付する。なお、本制度は、平成17年度の入学生から適用する。

2．受給資格者

学業成績、研究業績（大学院生）が優秀であり、他の学生の模範となる者で、下記のいずれかを満たす者

①徳島大学工学部（昼間コース）に在籍する者（ただし、一般入試（前期日程、後期日程）あるいはセンター試験を課す推薦入試によって入学した者）

②徳島大学大学院工学研究科に在籍する者（ただし、社会人特別選抜による入学者を除く）

3．奨学金の給付額と受給者数

（1）学生１人当たりの給付額

年額120万円

（2）給付者数

①学部学生

20名程度以内（ただし、内半数程度以上は徳島県内の高等学校出身者とする）

②大学院博士前期課程学生

８名程度（各専攻１名）

③大学院博士後期課程学生

５名程度（各専攻１名）

（3）年次計画

年次	学生数（人） B	M	D	計	給付総額（万円）
1	20	8	5	33	3,960
2	40	16	10	66	7,920
3	60	16	15	91	10,920
4	80	16	15	111	13,320
5	〃	〃	〃	〃	〃
6	〃	〃	〃	〃	〃
7	〃	〃	〃	〃	〃
8	60	16	15	91	10,920
9	40	16	10	66	7,920
10	20	8	5	33	3,960
		合	計	824	98,880

（補足）

・学部４年間での受給額合計：480万円

・学部入学後、博士後期課程
　修了までの受給額合計：1,080万円

－ 1 －

（出典:「日亜特別待遇奨学生（日亜特待生）制度実施要領」より抜粋）

資料1－8－1　徳島大学スキルス・ラボ概要

資料３

徳島大学スキルス・ラボ

徳島大学スキルス・ラボ（臨床技能学習施設、Clinical Skills Lab.）は、平成21年5月に改修を終えた臨床A棟1階に位置し、264cm^{2}の広い面積に、隣接する医学部第3・第4会議室の可動壁を開放することで、多人数が参加する講習会にも対応可能です。模擬診察室・病室等を備え、総額6000万円以上の様々なシミュレーター機器により、採血、縫合、心音・呼吸音聴診、蘇生などの基本的手技や、「がんプロ」機材を中心として中心静脈穿刺、腰椎・胸腔穿刺、腹腔鏡・胸腔鏡手術などの専門的手技の練習が行えます。

模擬病室

本学のスキルス・ラボの特徴は、医学部から提供された蔵本キャンパス全体で利用しやすい場所に、各学部等の教育機器を持ち寄り、横断的教育支援組織であるヘルスバイオサイエンス研究部医療教育開発センターが運営を依託されている点です。これによって、医歯薬3学部、附属病院で、学部・学科・職種を超えて広く利用可能であり、専門職種間連携教育（IPE)や卒前～卒後～生涯の臨床教育研修に活用されています。最近では、県内病院の医師・看護師対象の講習会や高校生対象のオープンキャンパスなどの地域開放利用も進んでいます。

胸腔鏡手術シミュレーター

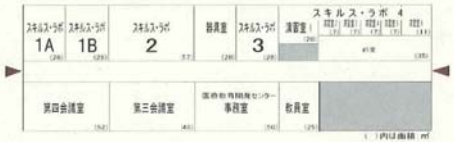
さらに、現在は看護職の２名が、機器操作・保守管理を熟知した「インストラクター」として、スキルス・ラボ利用の支援を担っています。

また、急変対応や侵襲的手技を中心として、診療状況をシミュレーションしたトレーニングプログラムを開発・実施しています。一方、模擬患者(SP)の育成・活動の場として、地域ボランティアの方々で徳島ＳＰ研究会を組織し、そのメンバーは医療面接、患者説明・病名告知、服薬指導などの実習や技能試験にご協力いただいております。

静脈採血シミュレーター

このように本学スキルス・ラボは、医療職種間、卒前卒後、学内学外の垣根を超えて、医療の質と安全の向上を目指す教育拠点を目指しています。

スキルス・ラボ平面図



（出典:「徳島大学スキルス・ラボ」説明資料より抜粋）

資料１－８－２　平成 21 年度スキルス･ラボ利用状況

部屋	件数	延べ時間	延べ人数	利 用 目 的 な ど
1A	53	358:15	2147	ACLS ワークショップ開催,CV 講習会,ICLS 講習会,OSCE,OSCE 前練習開放,オープンスキルスラボ（OSCE前実習）,クリクラ,スキルス･ラボ見学会,看護学科　実習,看護師新人研修,基本的診療技能実習,研修医　救急蘇生教育,呼吸音聴取,講義,新ｽｷﾙｽ･ﾗﾎﾞ開設記念 FD 事業,新人研修　多重業務,人工呼吸器講習会,生理機能演習,生理機能演習準備,第34回組織細胞科学講習会,徳島県高校生　医学体験研修,徳島文理高校　医学体験研修,内科診断学実習,勉強会の予行演習
1B	54	354:45	2176	ACLS ワークショップ開催,ACLS 講習会,CV 講習会,ICLS 講習会,OSCE,OSCE 前練習開放,オープンスキルスラボ（OSCE前実習）,クリクラ,スキルス･ラボ見学会,看護学科　実習,看護師新人研修,基本的診療技能実習,研修医　救急蘇生教育,呼吸音聴取,講義,新ｽｷﾙｽ･ﾗﾎﾞ開設記念 FD 事業,新人研修　多重業務,人工呼吸器講習会,生理機能演習準備,第34回組織細胞科学講習会,徳島県高校生　医学体験研修,徳島文理高校　医学体験研修,内科診断学実習,部署内急変対応研修,部署内研修,勉強会の予行演習
2	63	379:40	2437	ACLS ワークショップ開催,ACLS 講習会,CV 講習会,ICLS 講習会,OSCE,OSCE 前練習開放,ｲﾝﾀｰﾍﾞﾝｼｮﾝｼｭﾐﾚｰｼｮﾝﾄﾚｰﾅｰでの医療技術トレーニング,オープンスキルスラボ（OSCE前実習）,クリクラ,スキルス･ラボ見学会,看護学科　実習,看護師新人研修,看護職員確保ﾓﾃﾞﾙ事業･実務研修,基本的診療技能実習,研修医　救急蘇生教育,研修医教育講座　縫合実習,講義,新ｽｷﾙｽ･ﾗﾎﾞ開設記念 FD 事業,新採研修実施の為の打ち合わせ,新人研修　多重業務,人工呼吸器講習会,成人援助Ⅱ･演習,挿管の練習,第34回組織細胞科学講習会,中国･四国広域がんプロ養成コンソーシアム,徳島県高校生　医学体験研修,徳島文理高校　医学体験研修,内科診断学実習,勉強会
3	46	158:35	875	OSCE,OSCE医療面接SP練習,OSCE評価者講習　医療面接,SPさん勉強会,SP 講習会,ｲﾝﾀｰﾍﾞﾝｼｮﾝｼｭﾐﾚｰｼｮﾝﾄﾚｰﾅｰでの医療技術トレーニング,オープンスキルスラボ（OSCE前実習）,学生実習,看護師新人研修,基本的診療技能実習,研修医　救急蘇生教育,歯学部　OSCE 打ち合わせ,新ｽｷﾙｽ･ﾗﾎﾞ開設記念 FD 事業,人工呼吸器講習会,成人援助Ⅱ･演習,中国･四国広域がんプロ養成コンソーシアム,徳島県高校生　医学体験研修,徳島文理高校　医学体験研修,内科診断学実習,薬学病院実習 FD WG
4	47	252:30	1617	ACLS ワークショップ開催,ACLS資料作成,OSCE,OSCE医療面接SP練習,OSCE 前練習開放,オープンスキルスラボ（OSCE前実習）,スキルス･ラボ見学会,看護学科　実習,看護師新人研修,基本的診療技能実習,歯学部　OSCE 打ち合わせ,新ｽｷﾙｽ･ﾗﾎﾞ開設記念 FD 事業,人工呼吸器講習会,成人援助Ⅱ･演習,中国･四国広域がんプロ養成コンソーシアム,内科診断学実習
第三会議室	52	291:15	1809	ACLS ワークショップ開催,ACLS 講習会,AED 使用法を学ぶ （蔵本祭模擬病院で使用するため）,CV 講習会,ICLS 講習会,OSCE,SP 会,SP 研修,シュミレーション医療教育講習会,ルンバール講習会,医学体験実習の予行演習,看護学科　実習,看護師新人研修,看護職員確保ﾓﾃﾞﾙ事業･実務研修,基本的診療技能実習,救急蘇生実習,経腸栄養　実技,講義, 心臓縫合ﾚｸﾁｬｰ,新ｽｷﾙｽ･ﾗﾎﾞ開設記念 FD 事業,新人研修　多重業務,人工呼吸器講習会,成人援助Ⅱ･演習,徳島県高校生　医学体験研修,徳島文理高校　医学体験研修,内科診断学実習,勉強会の予行演習
第四会議室	26	186:00	905	ACLS ワークショップ開催,ACLS 講習会,CV 講習会,ICLS 講習会,SP 研修,シュミレーション医療教育講習会,ルンバール講習会,看護学科　実習,看護師新人研修,救急蘇生実習,講義,心臓縫合ﾚｸﾁｬｰ,新ｽｷﾙｽ･ﾗﾎﾞ開設記念 FD 事業,新人研修　多重業務,人工呼吸器講習会,成人援助Ⅱ･演習,徳島県高校生　医学体験研修,徳島文理高校　医学体験研修,勉強会の予行演習

（出典:「平成 21 年度　徳島大学スキルス･ラボ利用状況」より利用件数，時間，延べ人数を抽出）

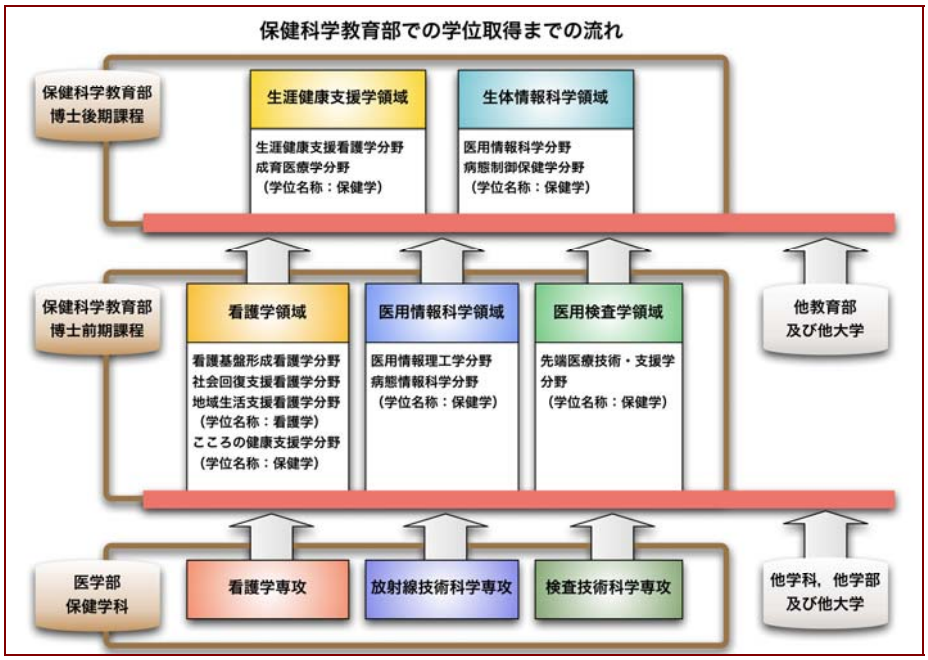
資料１－８－３ 「チーム医療入門」2009 年度　学生による自己評価結果

質 問 内 容	看護専攻	薬学部	口腔保健学科	歯学科	医学科
積極的に参加できたか？(5 段階)	71%	71%	100%	85%	77%
今回参加して自分自身の改善すべき点に気が付きましたか？(Yes/No)	97%	92%	100%	86%	89%
医師に対するイメージが変わった？(Yes/No)	61%	81%	100%	72%	82%
薬剤師に対するイメージが変わった？(Yes/No)	60%	90%	66%	57%	48%
看護師に対するイメージが変わった？(Yes/No)	87%	68%	67%	57%	67%
歯科医に対するイメージが変わった？(Yes/No)	84%	88%	100%	100%	85%
歯科衛生士に対するイメージが変わった？(Yes/No)	90%	88%	100%	100%	93%
この WS はよかった？(5 段階)	84%	74%	100%	100%	73%
学部学科横断的なチーム医療教育は必要と思うか？(必要/不要/分からない)	89%	84%	100%	100%	98%

数値は肯定的回答（5 段階の場合には≧4，Yes/No は Yes，必要/不要/分からないは必要）の割合を示す．

（出典:「チーム医療入門 2009 自己評価シート」より数値を集計）

資料１－９－１　保健学科・保健科学教育部の教育体系



（出典：医学部保健学科作成資料より抜粋）

資料１－９－２　保健学科・保健科学教育部　取得可能免許・資格

学　科　等	専　　攻	学　　位	資　　格	(注1)保健師国家試験に合格すると、申請するだけで「養護教諭二種免許」が与えられます。さらに、平成20年4月入学生からは「養護教諭一種免許」を得ることができます。(ただし、人数制限があります)
保健学科	看護学専攻	学士(看護学)	看護師、保健師(注1)　国家試験受験資格	
	放射線技術科学専攻	学士(保健学)	診療放射線技師　国家試験受験資格	
	検査技術科学専攻	学士(保健学)	臨床検査技師　国家試験受験資格	
保健科学教育部 博士前期課程	看護学領域	修士(看護学) 修士(保健学)	がん看護専門看護師認定審査受験資格 医学物理士認定試験受験資格 養護教諭専修免許 生殖補助医療胚培養士	
	医療情報科学領域	修士(保健学)		
	医用検査学領域	修士(保健学)		
保健科学教育部 博士後期課程	保健学専攻	博士(保健学)	－	－

（出典：「徳島大学医学部　取得可能免許・資格」より抜粋）

資料１－９－３　保健学科・保健科学教育部　免許・資格取得者数（平成 20 年度）

学科等	資　　格	受験者	合格者	合格率
保健学科	看護師免許	81 人	80 人	98.3 %
	保健師免許	92 人	92 人	100.0 %
	診療放射線技師免許	39 人	36 人	92.3 %
	臨床検査技師免許	15 人	15 人	100.0 %
保健科学教育部 博士前期課程	がん看護専門看護師認定審査	－人	－人	－
	医学物理士免許	3人	1人	33.3%
	養護教諭専修免許	－人	－人	－
	生殖補助医療胚培養士免許	2人	2人	100.0 %

（出典：徳島大学医学部「各種国家試験の合格者数」より抜粋）

資料1－9－4　保健科学教育部入学状況

	平成 18 年度			平成 19 年度			平成 20 年度			平成 21 年度		
	入学定員	入学者数	充足率(%)	入学定員	入学者数	充足率(%)	入学定員	入学者数	充足率(%)	入学定員	入学者数	充足率(%)
博士前期課程	14	17	121.4	14	14	100.0	14	20	142.9	14	21	150.0
博士後期課程							5	5	100.0	5	6	120.0

平成 20 年 10 月 1 日 博士前期課程 2 名転教育部生受入，平成 20 年 10 月 1 日 博士後期課程 1 名転教育部生受入

（出典：「徳島大学大学院 保健科学教育部入学状況」）

資料1－10－1　寮の改修等に関する予算執行状況

年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
執行額（千円）	2,940	4,568	9,959	0	0	52,552

（出典：施設マネジメント部予算執行状況資料より）

資料1－10－2　晨鐘寮・藍香寮・友朋寮からの要望事項等についての実施状況(平成 20，21 年度)

【晨鐘寮・藍香寮・友朋寮からの要望事項等についての実施状況（平成20年度）】

寮　名	要望内容及び改修希望箇所	実　施　状　況　等
晨鐘寮	ドアが下がりカギがかかりにくい	合計8部屋あり。施設Mに視察依頼し修繕改修済み。
	風呂のタイルが剥げ陥没	陥没部分を修繕済み。
	風呂の排水溝枠が部分的に取れかけている	大掛かりな改修が必要なため保留中。
	1階捕食室換気扇不備で煙りがこもる	構造上の問題で現時点では保留中。
	害虫(ムカデなど)の対策	建物の周りに石灰等をまくなど対策を助言。
	(梅雨の時期)湿気が多い為，壁にカビが付着	雑巾で湿気を拭きとるなどの対応をする。学務課で定期的に除湿剤を購入する。
	洗濯機が古い為脱水が出来ない	4/25 購入済み。
	1階のオーブントースター購入希望	5/29 購入済み。
晨鐘寮・藍香寮	風呂のフタが一部腐食した上，重いので軽い物に交換	H22.2 購入済み。
藍香寮	浴室シャワーのお湯が出にくい	H21 8 シャワーの交換済み
	台所用水切ラック(シンク掛けタイプ)購入希望	6/12 購入対応済み。
友朋寮	雨の日玄関入口に水溜まりが出来足が浸かる	モルタルを塗り改修済み。
	網戸の補修(居室2部屋と2階3階捕食室)	網戸合計6枚貼り替え済み。
	サッシが閉まりにくい(居室1部屋)	アルミサッシ戸車交換済み。
	風呂のタイル剥がれている所が数カ所あり	タイル補修済み。
	居室の壁紙の剥がれ，汚れ（合計5室）あり，張替希望。	施設Mに相談するも，大掛かりな改修が必要なため保留中。
	談話室のドア開閉時大きい音がする	音消しパッキン取付済み。
	庭木カイズカ苅込(雑木撤去共)	撤去改修済み。
	オーブントースター購入希望	6/24 購入対応済み。
	風呂のタイルの目地が着色し清掃しても落ちない	共通部分の全面改修工事（H21．3まで）に併せ改善予定

【晨鐘寮・藍香寮・友朋寮からの要望事項等についての実施状況（平成21年度）】

寮　名	要望内容及び改修希望箇所	実　施　状　況　等
晨鐘寮	シャワーの修理(1基)	H21年4月シャワー水栓(サーモスタット付)取替工事済
	冷蔵庫修理	修理済
	オーブントースター購入希望	H21年4月購入済
	洗濯機排水部分がドロドロになっている	寮生と用務員が掃除し，その後改善された
	1 階のトイレが詰まりやすい	H22 年 1 月 1 階小便器排水補修工事実施済
	2階の配管の流が悪い	配管清掃。経過観察中
藍香寮	冷蔵庫購入	修理不可のため，H21年4月新規に購入
	空調機の不具合	修理済
	電子レンジ故障	修理不可のため，H21年9月買い換え
	ベッドの畳交換してほしい	視察の結果，特に交換が必要とする物は無し。
	洗濯機不具合により購入希望	H21年9月晨鐘寮・藍香寮へ各1台購入
友朋寮	いたずら電話が架かってくるため，対策をしてほしい	いたずら電話対応の電話機に買い換え，H21 年9月取付け完了
	玄関ドアの閉まりが悪く，きちんと閉まらない事がある	施設Mを通じて業者を手配し修理済み
	空調機の不具合	修理済
	共用部分の壁にシミがたくさんある為補修希望	共通部分の全面改修工事（H21．3まで）に併せ改善予定
	衣類乾燥機が 4 台とも故障している	視察の結果，故障はしていない。代表者へ使用可能と連絡済。　(H22 年 2 月 1 台買い換え)
	部屋のクロスがはがれているため修繕希望	現在保留中

（出典：「晨鐘寮・藍香寮・友朋寮からの要望事項等についての実施状況(平成 20 年度)」「同（平成 21 年度）」）

資料1－11－1　英語による大学院工学教育コース（博士前期・後期課程）の学生募集要項

平成21年度4月入学
徳島大学大学院先端技術科学教育部における英語による
大学院工学教育コース（博士前期課程）の学生募集要項

徳島大学大学院先端技術科学教育部は，外国連携大学であるオークランド大学（ニュージーランド），慶北大学校（韓国），韓国海洋大学校（韓国），ハルピン工業大学（中国），同済大学（中国），西安交通大学（中国），北京郵電大学（中国），大連理工大学（中国）の8大学と共同してグローバルな高度専門技術者の育成を目的に国際的な工学教育コンソーシアムを構築し，**英語のみで修了可能な大学院工学教育コース**を開設することにしました。

本コースは，次の3つの教育目標を掲げています。

（Ⅰ）国際コミュニケーション力をもち，グローバルに活躍できる高度技術者の育成
（Ⅱ）先端研究に果敢に挑戦できる高度技術者・研究者の育成
（Ⅲ）産学連携による問題解決型研究や実践的研究開発ができる高度技術者の育成

本コースの学生は，上記8大学のいずれかの外国連携大学大学院及び徳島大学大学院先端技術科学教育部に籍を置き，両大学の指導教員の指導のもと，両大学からの修士の学位の取得を目指します。

本募集要項は，徳島大学大学院先端技術科学教育部における英語による大学院工学教育コース（博士前期課程）の学生を選抜するものです。本要項に従って，英語による大学院工学教育コース（博士前期課程）に入学が認められた外国連携大学の学生は，徳島大学の正規学生として入学することができます。

1．博士前期課程の募集人員

専 攻 名	人 員	コース名
知的力学システム工学専攻	若干人	建設創造システム工学コース 機械創造システム工学コース
環境創生工学専攻	若干人	化学機能創生コース 生命テクノサイエンスコース エコシステム工学コース
システム創生工学専攻	若干人	電気電子創生工学コース 知能情報システム工学コース 光システム工学コース

2．出願資格外国連携大学大学院博士後期課程に在籍している者，または入学を許可されている者。

なお，出願資格の最終認定は徳島大学大学院学則に則り行われる。

平成21年度4月入学
徳島大学大学院先端技術科学教育部における英語による
大学院工学教育コース（博士後期課程）の学生募集要項

徳島大学大学院先端技術科学教育部は，外国連携大学であるオークランド大学（ニュージーランド），慶北大学校（韓国），韓国海洋大学校（韓国），ハルピン工業大学（中国），同済大学（中国），西安交通大学（中国），北京郵電大学（中国），大連理工大学（中国）の8大学と共同してグローバルな高度専門技術者の育成を目的に国際的な工学教育コンソーシアムを構築し，英語のみで修了可能な大学院工学教育コースを開設することにしました。

本コースは，次の3つの教育目標を掲げています。

（Ⅰ）国際コミュニケーション力をもち，グローバルに活躍できる高度技術者の育成
（Ⅱ）先端研究に果敢に挑戦できる高度技術者・研究者の育成
（Ⅲ）産学連携による問題解決型研究や実践的研究開発ができる高度技術者の育成

本コースの学生は，上記8大学のいずれかの外国連携大学大学院及び徳島大学大学院先端技術科学教育部に籍を置き，両大学の指導教員の指導のもと，両大学からの博士の学位の取得を目指します。

本募集要項は，徳島大学大学院先端技術科学教育部における英語による大学院工学教育コース（博士後期課程）の学生を選抜するものです。本要項に従って，英語による大学院工学教育コース（博士後期課程）に入学が認められた外国連携大学の学生は，徳島大学の正規学生として入学することができます。

1 博士後期課程の募集人員

専 攻 名	人 員	コース名
知的力学システム工学専攻	若干人	建設創造システム工学コース 機械創造システム工学コース
環境創生工学専攻	若干人	化学機能創生コース 生命テクノサイエンスコース エコシステム工学コース
システム創生工学専攻	若干人	電気電子創生工学コース 知能情報システム工学コース 光システム工学コース

2．出願資格外国連携大学大学院博士後期課程に在籍している者，または入学を許可されている者。

なお，出願資格の最終認定は徳島大学大学院学則に則り行われる。

（出典：「平成 21 年度 4 月入学　徳島大学大学院先端技術科学教育部における英語による大学院工学教育コース（博士前期課程）の学生募集要領」，同（博士後期課程）より抜粋）

資料1－11－2　先端技術科学教育部ダブルディグリ，英語コース入学生数

博士前期課程	平成 18 年度		平成 19 年度		平成 20 年度		平成 21 年度		平成 22 年度	
	4 月	10 月	4 月	10 月	4 月	10 月	4 月	10 月	4 月	10 月
外国人留学生入学者	7	5	11	6	16	2	24	8	17	
（ダブルディグリ入学者）		2	2	1	3	0	10	3	9	
（英語コース入学者）							10	3	9	
博士後期課程	平成 18 年度		平成 19 年度		平成 20 年度		平成 21 年度		平成 22 年度	
	4 月	10 月	4 月	10 月	4 月	10 月	4 月	10 月	4 月	10 月
外国人留学生入学者	12	11	12	10	12	10	11	8	6	
（ダブルディグリ入学者）		2	2	2	1	2	3	4	4	
（英語コース入学者）							3	4	4	

（出典：工学部学務係調べ）

資料2－1－1　パイロット事業支援(研究支援プログラム)の推進により獲得した外部資金獲得状況一覧

平成 20 年～21 年度徳島大学パイロット支援事業による外部資金獲得状況　(1千万円以上)

[redacted]

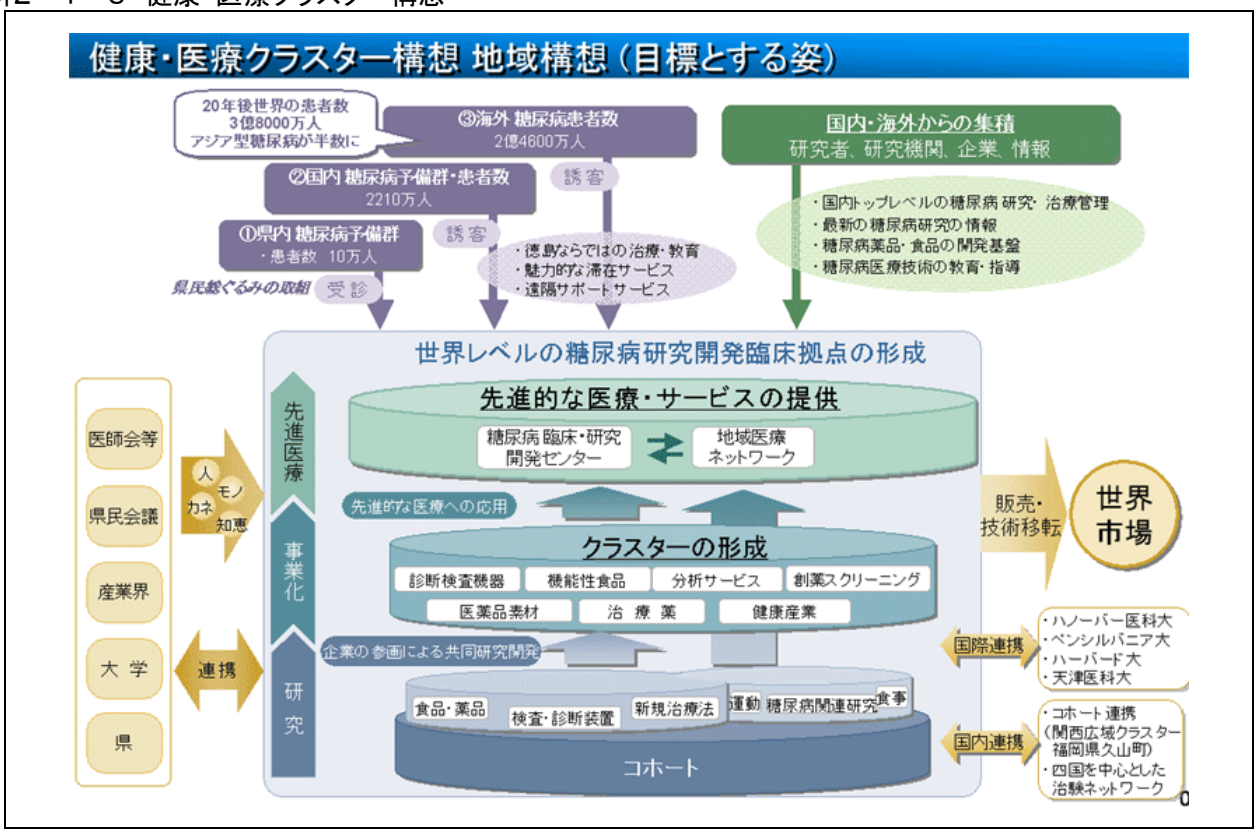
(出典:研究国際部産学連携・研究推進課調べ)

資料2－1－2　重点的に取り組む領域別研究業績

領　　域	平成 16～19 年度		平成 20～21 年度	
	SS	S	SS	S
ゲノミクス・プロテオミクスを基盤とする先端医科学	15	25	15	26
生命科学を基盤とする機能性食品科学	3	29	1	5
高度先端医療を担う医科学	10	26	3	10
健康長寿を担う口腔健康科学	5	17	2	6
ファーマコインフォマティックスを基盤とする薬科学	10	0	6	7
先進物質材料およびナノテクノロジーを基盤とした生命技術科学	6	12	0	15
地域創生総合科学	6	8	3	12

(出典:総務部企画・評価課調べ)

資料2－1－3　健康・医療クラスター構想



（出典：徳島大学ホームページより抜粋）

資料2－1－4　徳島大学糖尿病臨床・研究開発センター規則

○徳島大学糖尿病臨床・研究開発センター規則

平成２１年１２月２４日
規則第１９号制定

（趣旨）

第１条　この規則は，徳島大学学則（昭和３３年規則第９号）第４条第２項の規定に基づき，徳島大学糖尿病臨床・研究開発センター（以下「センター」という。）について必要な事項を定める。

（目的）

第２条　センターは，糖尿病医療に関する基礎研究と臨床研究を連携させた糖尿病研究開発拠点として，肥満・糖尿病とその合併症の予防，治療方法などの研究・開発を推進するとともに，徳島大学医学部・歯学部附属病院（以下「大学病院」という。）の複数診療科による糖尿病診療の連携及び関連医療機関との連携体制を構築することを通じて，斬新な糖尿病医療の実現化を図ることを目的とする。

（業務）

第３条　センターは，前条の目的を達成するため，次の各号に掲げる業務を行う。

（１）糖尿病対策の研究開発に関すること。
（２）糖尿病に係るトランスレーショナルリサーチの展開に関すること。
（３）糖尿病診療支援，関連医療人の人材育成に関すること。
（４）大学病院の複数診療科による糖尿病診療の連携体制構築に関すること。
（５）学外の関連医療機関との診療連携体制構築に関すること。
（６）医療ネットワークの構築に関すること。
（７）その他センターの目的を達成するために必要な業務

（出典：「徳島大学糖尿病臨床・研究開発センター規則」より抜粋）

資料２－２－１　第１期中期計画期間における研究関連施設の改善（改修等面積）の推移

対　象　施　設	H16	H17	H18	H19	H20	H21	合　　計
地域・交流プラザ新築		3,517					3,517
医学系基礎Ａ棟改修		3,951	4,767				8,718
医学系基礎Ｂ棟改修				6,246			6,246
医学臨床Ａ棟改修					7,163		7,163
保健学系Ｂ棟改修						3,504	3,504
保健学系Ｃ棟改修					2,179		2,179
アイソトープ総合センター改修・増築						860	860
動物実験施設改修						4,200	4,200
総合教育研究棟（Ｂ館）改修					3,518		3,518
総合教育研究棟（Ｃ館）改修					2,108		2,108
総合科学部１号館改修						7,645	7,645
附属図書館本館改修					5,106		5,106
各年度の合計面積（㎡）	0	7,468	4,767	6,246	20,074	16,209	54,764
各年度の累積面積（㎡）	0	7,468	12,235	18,481	38,555	54,764	－
Ｈ21年度末累積面積に対する割合（%）	0.0%	11.7%	19.1%	28.9%	70.4%	100.0%	－

（出典:「徳島大学の施設マネジメントに関するQ＆Aver.5」より抜粋）

資料２－２－２　医学基礎B棟利用者満足度アンケート調査結果

評価項目	建物の印象の総合評価		使いやすさの総合評価		快適性の総合評価	
評価基準	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
非常に満足	10	21	9	20	10	21
やや満足	24	51	18	39	27	58
どちらでもない	12	26	17	37	8	17
やや不満足	1	2	2	4	2	4
非常に不満足	0	0	0	0	0	0
合　計	47	100	46	100	47	100

（注）調査対象者は、教員及び学生 47 名である。

（出典:「医学基礎B棟における利用者満足度調査報告書」より抜粋）

資料2－3－1　徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部総合研究支援センター規則

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部総合研究支援センター規則

（設置）

第１条　徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部（以下「研究部」という。）に，徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部総合研究支援センター（以下「センター」という。）を置く。

（目的）

第２条　センターは，医学系分野，歯学系分野，薬学系分野，栄養学系分野及び保健学系分野における高度かつ先端的な医療科学研究及び動物実験に関する教育・研究を総合的に支援・推進することを目的とする。

（部門）

第３条　センターに，前条の目的を達成するため，次の部門を置く。

（１）先端医療研究支援部門

（２）動物資源研究部門

２　前項各号に規定する部門について必要な事項は，別に定める。

（出典：「徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部総合研究支援センター規則」より抜粋）

資料2－3－2　総合研究支援センター機器使用計算表

総合研究支援センター機器使用計算表

	平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月	平成 21 年 4 月～平成 22 年 3 月
グ ル ー プ	合 計 金 額 （ 円 ）	合 計 金 額 （ 円 ）
生物画像グループ　合　計	1,921,900	2,803,600
情報解析グループ　合　計	1,649,750	1,505,950
生体分子解析グループ　合　計	14,251,240	13,043,260
ヒト組織バンクグループ　合　計	422,340	567,150
プロテオミクス解析グループ　合　計	3,570,422	9,502,106
全グループ　　合　計	21,815,652	27,422,066

（出典「総合研究支援センター機器使用計算表」より抜粋）

資料2－3－3　平成21年度　共用機器使用状況総括表

区　分	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
共用機器数（A）	280	280	244	240	228	321
実績装置数（B）	76	78	52	69	82	126
重要物品数（C）	982	1,118	881	960	1,047	1,487
共用化率（A／C）	28.51%	25.04%	27.70%	25.00%	21.77%	21.59%
稼働率（B／A）	27.14%	27.86%	21.31%	28.75%	35.96%	39.25%

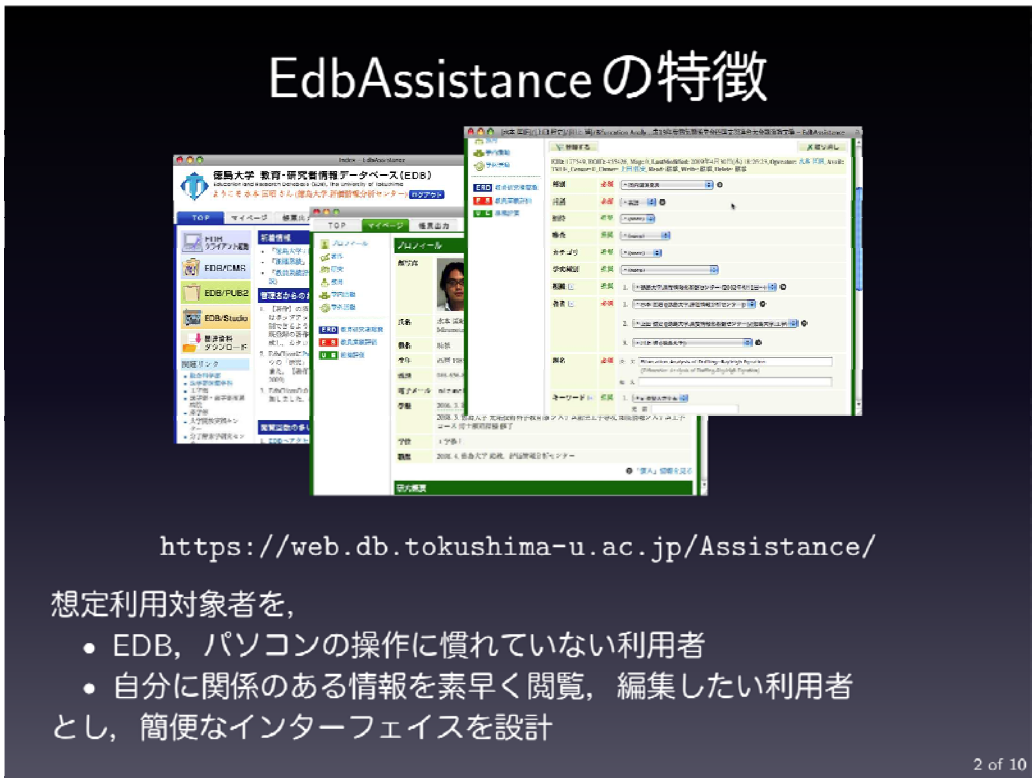
（出典：研究国際部産学連携・研究推進課調べ）

資料2－4－1　平成 20, 21 年度任用学長裁量ポストプロジェクト一覧

№.	部局等名	講座又はプロジェクト名	職名	採用日	満了日
1	埋蔵文化財調査室	埋蔵文化財調査室（埋蔵文化財調査プロジェクト）	助教	19. 4. 1	22. 3.31
2	事務局総務部	徳島大学職員相談室	助教	19. 5. 1	22. 4.30
3	HBS研究部	医療教育開発センター(医療教育開発センターにおける業務の継続的発展)	准教授	19. 6. 1	22. 5.31
4	工学部	u-Learning および u-Campus 推進プロジェクト	助教	19. 7. 1	22. 6.30
5	医学部	ストレスのイノベーション研究プロジェクト	講師	19. 7. 1	22. 6.30
6	医学部・歯学部附属病院	心臓血管外科	助教	19. 7. 1	22. 6.30
7	総合科学部	高大接続授業を含む理系基礎教育充実プロジェクト	助教	19.10. 1	22. 9.30
8	大学開放実践センター	徳島大学FD推進プロジェクト	助教	19.10. 1	22. 9.30
9	疾患酵素学研究センター	酵素タンパク質結晶解析室	助教	19.10. 1	22. 9.30
10	工学部	複数学位を与える国際連携大学院教育の創設	助教	20. 3. 1	23. 2.28
11	アイソトープ総合センター	アイソトープ総合センター	講師	20. 3. 1	23. 2.28
12	全学共通教育センター	英語及び情報教育の充実プロジェクト	助教	20. 4. 1	23. 3.31
13	工学部	先端技術科学教育部　長期インターンシップ委員会　派遣型高度人材協同育成プロジェクト	助教	20. 4. 1	23. 3.31
14	総合科学部	教育力向上と教員養成充実プロジェクト	助教	20. 4. 1	23. 3.31
15	医学部	国際宇宙ステーション実験遂行プロジェクト（生体栄養学分野）	助教	20. 4. 1	23. 3.31
16	医学部	前期・後期研修医の教育体制の充実及び診療の質向上をめざして	講師	20. 4. 1	23. 3.31
17	歯学部	卒前臨床実習教育支援センター（国際連携を基盤とした新しい歯科臨床教育プログラムの設置を含む）	助教	20. 4. 1	23. 3.31
18	薬学部	臨床薬学実務教育室	助教	20. 4. 1	23. 3.31
19	医学部・歯学部附属病院	前期・後期研修医の教育体制の充実及び診療の質向上をめざして	助教	20. 4. 1	23. 3.31
20	医学部・歯学部附属病院	医療情報部	助教	20. 4. 1	23. 3.31
21	ゲノム機能研究センター	蛋白質情報部門蛋白質発現分野	助教	20. 4. 1	24. 3.31
22	評価情報分析センター	情報流通基盤を活用した評価情報収集・分析システム構築プロジェクト	助教	20. 4. 1	23. 3.31
23	学生支援センター	学生相談室専任教員（臨床心理士）の配置	助教	20. 4. 1	23. 3.31
24	埋蔵文化財調査室	埋蔵文化財調査室（埋蔵文化財調査プロジェクト）	准教授	20. 4. 1	25. 3.31
25	医学部	器官病態修復医学講座・循環器内科学分野（設置予定）	助教	20. 6. 1	23. 5.31
26	ゲノム機能研究センター	ゲノム情報部門ゲノム制御分野	助教	20.10. 1	24. 9.30
27	医学部	ストレス栄養科学教育センター　グローバル COE「健やかな子どもを育む栄養教育科学」－職員・教育・発達領域への新たな挑戦－	助教	21. 4. 1	24. 3.31
28	医学部・歯学部附属病院	消化器・移植内科	助教	21. 4. 1	24. 3.31
29	工学部	英語のみで修了可能な大学院専門コースの開設	講師	21. 6.	24. 6.15
30	医学部	感覚情報医学講座　臨床神経科学分野（神経内科）	講師	21. 8. 1	24. 7.31
31	医学部・歯学部附属病院	薬学6年生学生に対する特色ある薬剤師教育プログラムの実現を目指して（薬剤部および薬学実務教育室）	助教	21. 8. 1	24.7.31
32	薬学部	臨床薬学実務教育室（薬局実務実習担当）	助教	21.10.16	24.10.15

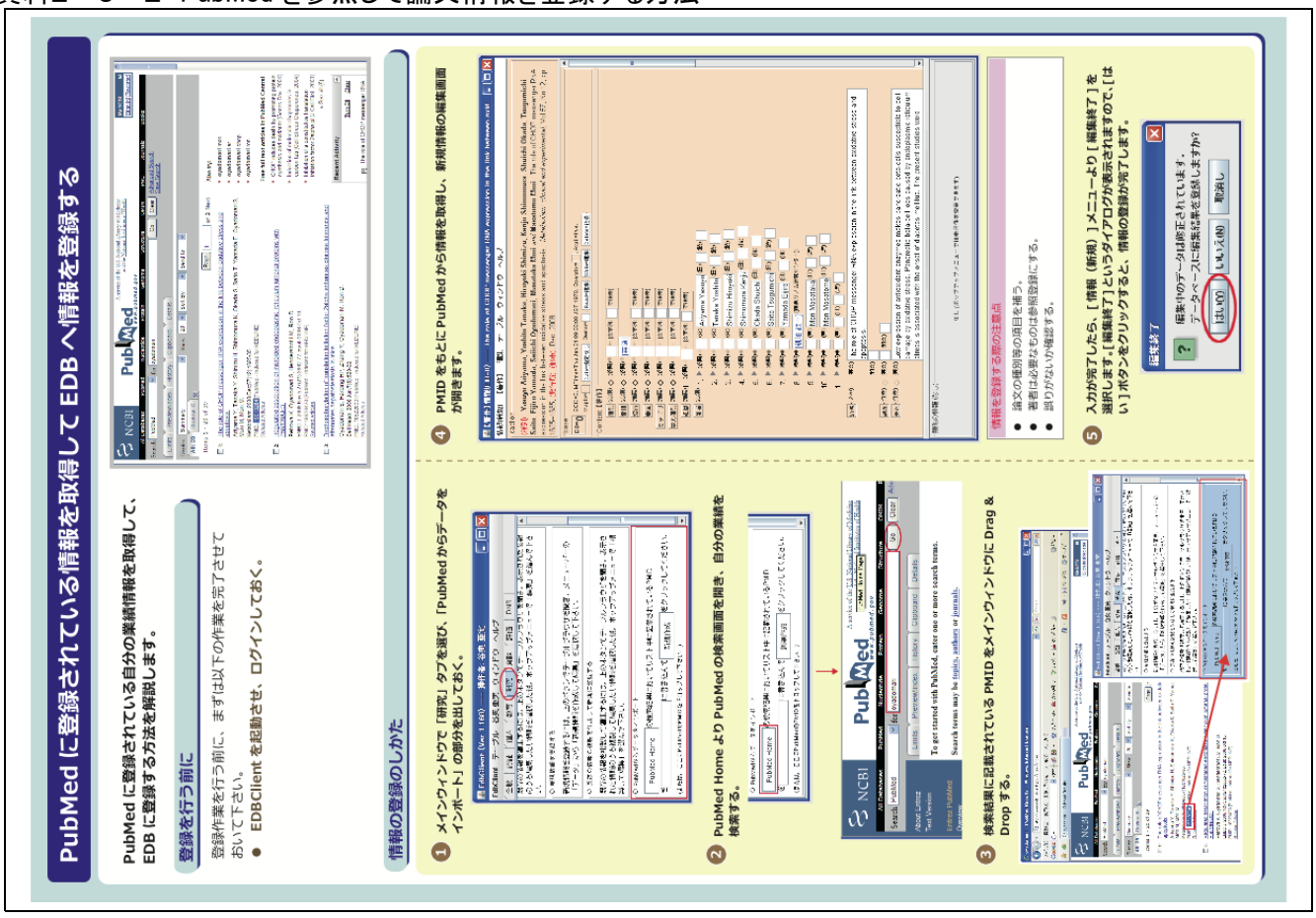
（出典：総務部人事課作成「平成 16～21 年度新規任用学長裁量ポストプロジェクト一覧」より平成 20,21 年度任用分を抽出）

資料2－5－1　EDBAssistance の特徴



（出典:2009/9/4「EdbAssistance 講習会資料」より抜粋）

資料2－5－2　PubMed を参照して論文情報を登録する方法



（出典:評価情報分析センター作成「PubMed に登録されている情報を取得して EDB に情報を登録する方法」）

資料2－6－1　疾患ゲノム研究センターの組織

疾患ゲノム研究センターの部門，分野

ゲノム情報部門	新たな観点からの解析が必要なゲノム情報の包括的研究を基盤に、生命システムを統合する原理解明を目指すとともに、疾患の克服に向けた標的分子の同定を図ります。
ゲノム機能分野	1型糖尿病など自己免疫疾患の発症を制御するPD1の病態への関与を解明してきた実績をもとに、自己免疫疾患の原因解明と新規治療法の開発を目指しています。
ゲノム制御分野	悪性腫瘍に発現変動する遺伝子のゲノム網羅的解析に関する先駆的な実績をもとに、ゲノム情報発現の病態制御とその臨床応用を目指した疾患ゲノム研究を推進しています。
蛋白質情報部門	ゲノムにコードされる蛋白質機能の包括的研究を基盤に、生命システムを統合する原理解明を目指すとともに、疾患の克服に向けた分子同定を図ります。
生体機能分野	蛋白質品質管理の分子機構と2型糖尿病における異常の解明に関する先鋭的な研究実績をもとに、生命システムの監視とその破綻の原理解明を目指しています。
蛋白質発現分野	エネルギー代謝と細胞死を統御するミトコンドリアに関する独自の研究実績をもとに、蛋白質機能の病態制御を目指したプロテオミクス解析研究を推進しています。
生体情報部門	システム生命科学に基づいて高次生命システムを統合する原理の解明と、その破綻による疾患の理解を図ります。
病態ゲノム分野	2型糖尿病と関節リウマチを主な対象にした疾患感受性遺伝子のゲノム多型解析の実績をもとに、難治性疾患をもたらす生命システムの破綻機構の解明と治療法開発を目指しています。
生命システム形成分野	免疫細胞の運命分岐機構に関する先端的研究実績をもとに、生命システムの頑強性と適応性の原理解明とその破綻による免疫疾患発症機構の解明を目指しています。
システム生物学分野	コンピュータ科学に基づいて生命システム情報の統合と破綻のモデル構築を図ります。

（出典：「疾患ゲノム研究センターパンフレット 2009」より抜粋）

資料2—6－2　疾患ゲノム研究センターの研究業績

	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
論文数	17 報	38 報	44 報	37 報
論文数（IF≧20）	2 報	2 報	1 報	1 報
論文数(20＞IF≧10)	6 報	5 報	7 報	2 報
IF 合計	180.8	225.8	306.6	201.2

（出典：疾患ゲノム研究センター調べ）

資料2－6－3 疾患酵素学研究センターの共同研究

徳島大学疾患酵素学研究センター　平成21年度　学内外プロジェクト研究一覧

	研究課題	共同研究先	受入研究部門
1	角質デスモゾーム機能の解析による難治性皮膚疾患「乾癬」の病態研究	旭川医科大学，高知大学医学部，Genentech，Jansen Pharma	免疫病態研究部門
2	自己寛容成立機構におけるシグナル伝達分子の機能解析	理化学研究所発生・再生科学総合研究センター，東京大学医科学研究所，国立感染症研所	免疫病態研究部門
3	胸腺上皮細胞分化因子としてのAIREの機能解析	理化学研究所免疫・アレルギー科学総合研究センター	免疫病態研究部門
4	リンパ腫特異的血清マーカーの探索	徳島大学大学院HBS研究部[redacted]	疾患プロテオミクス研究部門
5	RNAウイルスの翻訳・複製機構の解析	京都大学・[redacted]	疾患プロテオミクス研究部門
6	脂肪滴構成タンパク質のプロテオミクスによる形成制御機構の解析	名古屋大学・[redacted]	疾患プロテオミクス研究部門
7	脂肪滴構成タンパク質のプロテオミクスによる形成制御機構の解析	高知大学・[redacted]	疾患プロテオミクス研究部門
8	プリオン蛋白の産生効率およびその病原性規定部位の解析	産業医科大学	神経変性疾患研究部門
9	プリオン病における正常型プリオン蛋白質シグナル機構の解明	長崎大学	神経変性疾患研究部門
10	脳内におけるインスリン受容体の役割	群馬大学生体調節研究所	シグナル伝達と糖尿病研究部
11	超高感度ELISA測定系の改良	徳島文理大学	シグナル伝達と糖尿病研究部
12	糖尿病の新規血清マーカーの臨床的意義の確立とその応用	徳島大学，徳島文理大学，愛媛大学，香川大学，高知大学，滋賀医科大学，熊本大学，医学生物学研究所，[redacted]	シグナル伝達と糖尿病研究部
13	新規細胞死制御因子（ヌクリング）の病態生理学的意義	臨床神経科学分野、口腔分子病態学分野	病態システム酵素学研究部門
14	D-アミノ酸酸化酵素のバイオリアクターを用いた大量培養系の開発	徳島大学工学部	病態システム酵素学研究部門
15	D-アミノ酸酸化酵素の構造生物学	徳島文理大学	病態システム酵素学研究部門
16	ヒト死後脳を用いた精神神経疾患の病態解析	国立精神・神経センター，[redacted]	病態システム酵素学研究部門
17	パーキンソン病（PD）の病態における脳内D-セリンの機能解明	富山大学	病態システム酵素学研究部門
18	化学物質による肝炎におけるKupffer細胞の役割に関する研究	奈良女子大学	病態システム酵素学研究部門
19	腎臓におけるD-アミノ酸酸化酵素の病態生理学的意義	西出病院	病態システム酵素学研究部門
20	中枢神経系のセリンメタボローム解析	慶北大学（韓国）	病態システム酵素学研究部門
21	アポトーシス制御の病態システムバイオロジー	KAIST（韓国）	病態システム酵素学研究部門
22	クラリスロマイシンの作用機序検討	[redacted]	応用酵素・疾患代謝研究部門
23	インフルエンザ罹患リスクの予測方法についての研究	[redacted]	応用酵素・疾患代謝研究部門
24	高感度マルチ抗原アレルギー診断チップ開発	[redacted]	応用酵素・疾患代謝研究部門
25	肥満と酸化ストレス	徳島大学大学院HBS研究部	応用酵素・疾患代謝研究部門
26	トキシコロジー分野へのプロテオーム解析の応用	徳島大学大学院HBS研究部	応用酵素・疾患代謝研究部門
27	生体成分粘膜アジュバントの実用化研究	阪大微生物病研究会，化学及血清療法研究所，大阪大学微生物病研究所，警友会病院小児科	応用酵素・疾患代謝研究部門
28	インフルエンザ脳症の発症機序の解明と治療法の開発研究	島根大学小児科，福井大学小児科，川崎医科大学微生物学教室	応用酵素・疾患代謝研究部門
29	インフルエンザ脳症の発症機序解析	千葉大学大学院小児病態学，国立下志津病院小児科	応用酵素・疾患代謝研究部門
30	クラリスロマイシン及びリン酸オセルタルビルが粘膜免疫システムに及ぼす影響について	徳島大学大学院HBS研究部	応用酵素・疾患代謝研究部門

（出典：疾患酵素学研究センター調べ）

資料2－7－1 第1期中期計画期間における環境防災研究センターの活動状況の推移

（延べ回数）

活動内容		H16	H17	H18	H19	H20	H21
主催・共催・協力事業	講演会・シンポジウム・フォーラム	5	10	4	4	10	2
	セミナー・研修会・研究会・懇談会	0	0	10	3	21	27
	合計	5	10	14	7	31	29
災害調査		2	4	1	10	9	12

（出典：環境防災研究センター調べ）

資料2－7－2　平成 20 年度及び 21 年度における環境防災研究センターの特徴的な取組

平成20年度	主催事業	・徳島大学での防災ミニフォーラム3回（参加者：60人、100人、80人） ・はじめてのBCP策定研修会（参加者：13人） ・徳島県企業防災推進委員会研究部会（座長：中野晋教授）（11回） ・建設業BCP検討会（徳島・香川地区：4回、高知地区：4回）
	共催・協力事業	・防災フォーラム「大規模災害」に備える ・徳島防災フェスタ2008 ・防災・減災フォーラム2008in徳島
	災害調査	・岩手・宮城内陸地震被害調査（5回） ・中国四川大地震被害調査 ・能登半島地震及び新潟県中越沖災害復興調査
	講師派遣	・日本防災士研修センター「防災士養成研修講座」，高松市，松前町 ・徳島県自治研修センター「台風・豪雨災害と危機管理」，徳島市 ・徳島市小・中・高等学校教員防災研修「防災教育の新しい手法」，徳島市 ・自主防災組織リーダー研修会「災害時意思決定訓練」，徳島市 ・他多数
平成21年度	主催事業	・地域建設企業のための「災害時事業継続」講演会（参加者：211人） ・経営者のためのBCPセミナー（参加者：99人） ・BCP策定研修会（3回）、徳島県建設BCP研究会（3回） ・徳島県企業防災推進委員会BCP研究部会（座長：中野晋教授）（9回）
	共催・協力事業	・みなみから届ける環づくり会議（11回）
	災害調査	・防府市豪雨による斜面崩壊・地すべり被害調査 ・兵庫県佐用町洪水被害調査（6回） ・駿河湾を震源とした地震被害調査（2回） ・台風18号による徳島県牟岐町の強風被害調査

（出典：環境防災研究センター調べ）

資料2－8－1　平成 20 年度附属図書館改修工事概要

（出典：「附属図書館 2009 施設整備概要(改修工事リーフレット)」より抜粋）

資料2－8－2 附属図書館利用者アンケート・懇談会で寄せられた意見・要望一覧

内　　容	意 見 ・ 要 望
改修後の図書館について	○自習スペースを拡大して欲しい ○書庫を使いやすくして欲しい(明るさ，移動しやすさなど) ○今まで暗かったので明るい電気になったら本が読みやすい。でも今までの太陽が入って風の通る図書館でもあって欲しい ○飲食可のスペースの設置など ○コインロッカーの設置 ○蔵書を置くスペースの拡大 ○カフェテリアが出来ることによってうるさくなるのではないかと不安。
開館時間	○利用時間を少しでも長くして欲しい ○時間外利用時間を延長して欲しい(蔵本分館) ○本館でも無人開館して欲しい
資料配置	○資料配置を分かりやすくして欲しい ○どんな本を置いてあるかの広報，掲示 ○新着図書を分かりやすくして欲しい。その一覧表も欲しい ○雑誌を分かりやすくして欲しい ○閲覧室の図書を書庫に移動させる基準はなにか(懇談会)

(出典:「利用者アンケート・懇談会で寄せられた意見・要望について」より抜粋)

資料2－8－3 附属図書館 2009 年度アンケート結果概要

アンケート回答者 806 名(徳大生 762 名，教職員 10 名，学外者 26 名)

	項 目	対 象	大変満足	満足	やや満足	不満	未回答
サービス・設備について	開館時間	徳大生	17.4%	55.9%	19.1%	6.4%	1.2%
		教職員	36.4%	45.5%	9.1%	0.0%	9.1%
		学外者	35.7%	53.6%	10.7%	0.0%	0.0%
	貸出冊数	徳大生	19.7%	64.4%	10.2%	4.1%	1.6%
		教職員	18.2%	36.4%	36.4%	0.0%	9.1%
		学外者	25.0%	39.3%	21.4%	0.0%	14.3%
	貸出日数	徳大生	17.0%	63.5%	14.1%	3.9%	1.4%
		教職員	18.2%	63.6%	9.1%	0.0%	9.1%
		学外者	10.7%	60.7%	14.3%	0.0%	14.3%
	パソコン	徳大生	17.4%	55.9%	19.1%	6.4%	1.2%
		教職員	36.4%	45.5%	9.1%	0.0%	9.1%
		学外者	35.7%	53.6%	10.7%	0.0%	0.0%
資料の品揃えについて	図書	徳大生	10.8%	55.6%	25.1%	7.5%	1.0%
		教職員	0.0%	54.5%	9.1%	27.3%	9.1%
		学外者	14.3%	46.4%	28.6%	0.0%	10.7%
	雑誌	徳大生	11.9%	59.9%	20.1%	5.4%	2.7%
		教職員	9.1%	27.3%	27.3%	27.3%	9.1%
		学外者	3.6%	71.4%	21.4%	0.0%	3.6%

(出典:「平成 21 年度利用者アンケート実施結果報告」より数値を抽出)

資料2－8－4 附属図書館学外者利用統計

年　度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
本館　登録者数	106	137	171	180	615	643	773	880	956	1,087	763	927
本館　延入館者数	213	469	1,992	2,465	5,985	7,689	11,159	14,428	18,341	18,598	11,111	13,838
本館　延貸出人数	157	200	423	254	354	526	570	812	783	1,070	794	1,642
本館　延貸出冊数	332	440	677	569	938	1,091	1,208	1,931	1,943	2,702	2,026	4,149
分館　登録者数	55	73	163	167	703	691	709	729	626	646	1,006	916
分館　延入館者数	212	281	857	1,158	6,179	7,685	7,519	7,363	8,660	7,668	12,008	11,850
分館　延貸出人数	109	206	360	207	236	219	331	433	387	416	705	955
分館　延貸出冊数	220	440	819	440	584	471	752	911	857	919	1,465	2,080
合計　登録者数	161	210	334	347	1,318	1,334	1,482	1,609	1,582	1,733	1,769	1,843
合計　延入館者数	425	750	2,849	3,623	12,164	15,374	18,678	21,791	27,001	26,266	23,119	25,688
合計　延貸出人数	266	406	783	461	590	745	901	1,245	1,170	1,486	1,499	2,597
合計　延貸出冊数	552	880	1,496	1,009	1,522	1,562	1,960	2,842	2,800	3,621	3,491	6,229

(出典:「附属図書館学外者利用者統計」)

資料2－8－5 学生用図書の整備状況

区　分	平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度	
	冊　数	学生一人当たり	冊　数	学生一人当たり	冊　数	学生一人当た	冊　数	学生一人当たり	冊　数	学生一人当たり	冊　数	学生一人当たり
A.蔵書冊数	794,781冊	102冊	805,620冊	102冊	805,126冊	102冊	813,078冊	103冊	816,371冊	104冊	816,767冊	105冊
うち、本館	本館556,550冊		本館563,978冊		本館570,307冊		本館577,500冊		本館581,330冊		本館586,321冊	
うち、分館	分館238,231冊		分館241,642冊		分館234,819冊		分館235,578冊		分館235,041冊		分館230,446冊	
B.年間購入図書	6,617冊	0.85冊	5,212冊	0.66冊	6,252冊	0.79冊	5,825冊	0.74冊	5,312冊	0.68冊	6,969冊	0.90冊
C.年間購入学生用図書	4,745冊	0.61冊	4,057冊	0.51冊	4,847冊	0.62冊	4,450冊	0.56冊	4,351冊	0.56冊	6,343冊	0.82冊
備考：利用対象者（学生数）	7,764人		7,888人		7,878人		7,878人		7,834人		7,760人	
	冊数	購入率	冊数	購入率	冊数	購入率	冊数	購入率	冊数	購入率	冊数	購入率
内数C-1.学生希望図書 購入率：冊数/購入希望冊数*100	185冊	100%	134冊	100%	261冊	100%	321冊	100%	270冊	100%	366冊	100%

備考：(1) 蔵書冊数：各年度の 4 月 1 日現在で雑誌を除く。

(2) 年間購入図書：当該年度の図書購入費により購入された図書（資産となるもの）

(3) 年間購入学生用図書：当該年度に学生用として選定・購入し、図書館に配置したもの。

(4) 利用対象者：各学年の 5 月 1 日現在の全学内構成員。学生：学部・大学院生

(5) 学生用希望図書については、重複図書（図書館備付）、品切・絶版等で購入できなかったものを除く。

（出典:附属図書館「学生用図書の整備状況」）

資料2－8－6 電子図書館的機能の充実の推移

項　　目	H16	H17	H18	H19	H20	H21
閲覧可能電子ジャーナルタイトル数	3,028	3,428	8,984	7,666	9,111	11,736
(H16年度を1とした指数)	(1.00)	(1.13)	(2.97)	(2.53)	(3.01)	(3.88)
電子ジャーナル利用件数	223,952	288,721	297,591	332,670	383,723	388,119
(H16年度を1とした指数)	(1.00)	(1.29)	(1.33)	(1.49)	(1.71)	(1.73)
学術データベースの利用件数	51,337	81,718	99,894	111,148	163,343	214,603
(H16年度を1とした指数)	(1.00)	(1.59)	(1.95)	(2.17)	(3.18)	(4.18)
各年度の遡及目録入力冊数	46,000	44,000	37,000	36,000	24,379	34,816
各年度の遡及目録入力冊数の累積	207,000	251,000	288,000	324,000	348,379	383,195
目標達成率(%)(注)	(58%)	(70%)	(80%)	(90%)	(97%)	(106%)

(注) 目標達成率(%)は「目録データ遡及入力年次計画(10カ年計画:H12年度－H21年度)」における目標数値(360,000冊)に対する達成率

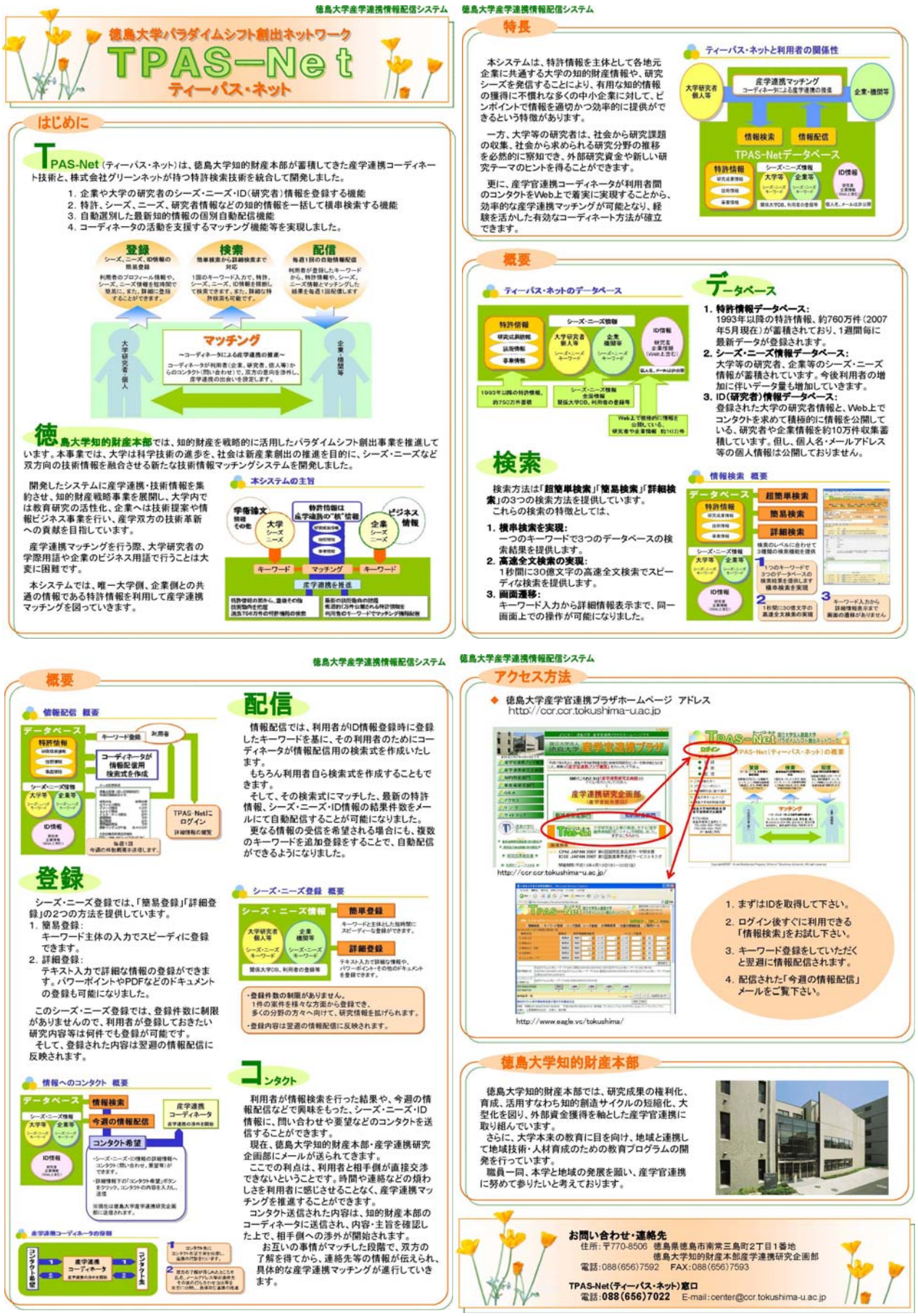
（出典:「附属図書館年次報告書」から抜粋）

資料2－8－7 附属図書館における展示会及び講演会開催一覧（平成 21 年度）

展示会・講演会の名称	期　　間	来場者数
徳島大学附属図書館改修記念「伊能図展」 － 伊能忠敬が歩いた西日本 －	平成 21 年 6 月 29 日 ～平成 21 年 7 月 31 日	77 （芳名録記入者数）
徳島大学附属図書館蔵の伊能図「大日本沿海図稿」	平成 21 年 7 月 28 日	40
「続・伊能図展」 － 伊能忠敬が歩いた東日本 －	平成 21 年 9 月 11 日 ～平成 21 年 10 月 12 日	50 （芳名録記入者数）
徳島大学附属図書館学術講演会 「徳島城下町と洲本城下町」	平成 21 年 11 月 6 日	50
徳島大学附属図書館展示会「阿波と淡路の御城下絵図」	平成 21 年 11 月 4 日 ～平成 21 年 12 月 20 日	29 （芳名録記入者数）

（出典:「附属図書館年次報告書」から抜粋）

資料3－1－1　TPAS-Net 概要



（出典：「徳島大学パラダイムシフト創出ネットワーク　TPAS-Net」パンフレット）

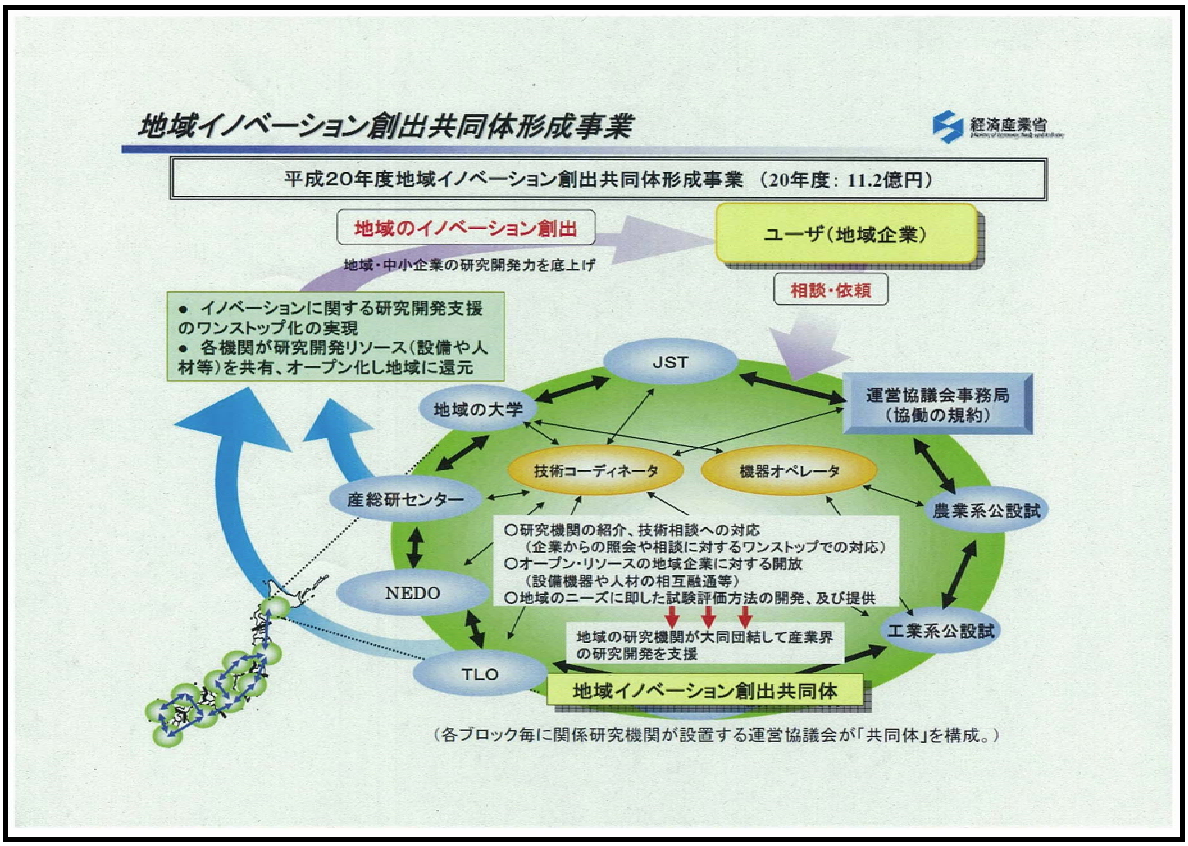
資料3－1－2　TPAS-Net 年間利用者数等

期間:2009/1/1 ～ 2009/12/31

学内, 学外の別	項目	ID 発行数	利用者数(ID 数)	利用回数
学外	企業(有料)5 社	25	17	729
	テスト利用者	203	59	2,144
	徳島地区大学高専	170	18	159
学外利用者　合計		398	94	3,032
学内	知的財産本部教職員	39	23	3,659
	徳島大学教職員	919	26	718
学内利用者　合計		958	49	4,377
総合計		1,356	143	7,409

(出典:「TPAS-Net 年間利用者数等」より抜粋)

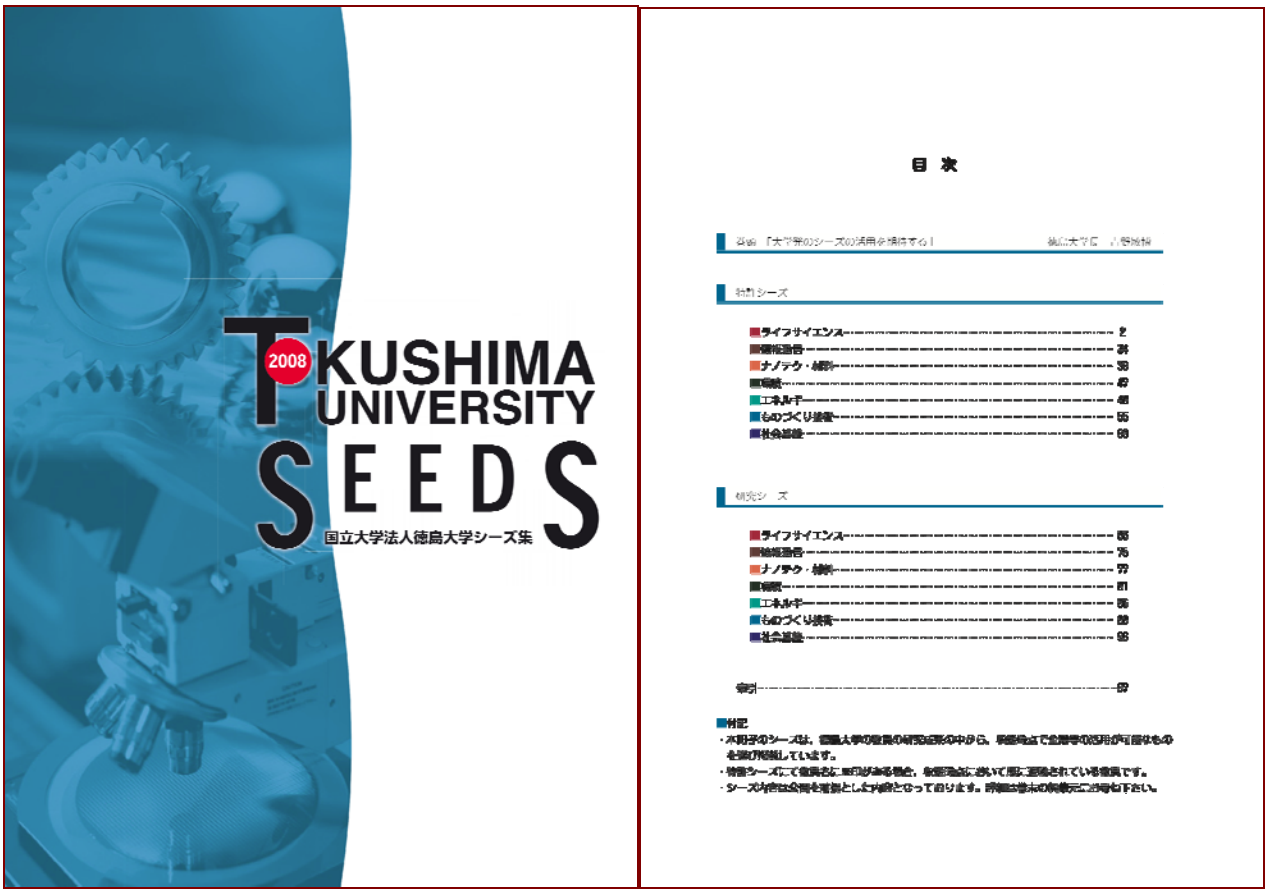
資料3－1－3　地域イノベーション創出共同体形成事業



(出典:経済産業省資料「平成 20 年度「地域イノベーション創出共同体形成事業」に係る補助金の交付先の選定について」より抜粋)

資料3－2－1　国立大学法人徳島大学シーズ集 2009

日本語版の表紙と目次（掲載特許シーズ: 63 件, 研究シーズ:44 件）



（出典:「国立大学法人徳島大学シーズ集 2009」より抜粋）

資料3－2－2　譲渡技術移転実績

年　度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
技術移転件数	3 件	12 件	13 件	8 件	19 件	7 件
技術移転対価	250 千円	4,200 千円	3,970 千円	7,223 千円	11,090 千円	8,923 千円

（出典:研究国際部産学連携・研究連携課調べ）

資料3－2－3　産業・技術・人的交流協力に関する協定書

国立大学法人徳島大学と財団法人韓日産業・技術協力財団との
産業・技術・人的交流協力に関する協定書

国立大学法人徳島大学（以下「徳島大学」という。）と財団法人韓日産業・技術協力財団（以下「韓日財団」という。）は、日韓両国における技術専門家及び中小企業の情報交換及びビジネス交流活動を通じて、日韓両国間の経済交流の活性化及び技術の発展に寄与するため、産業・技術・人的交流協力について、次のとおり協定を締結する。

1. 徳島大学と韓日財団は、次に掲げる事項について協力するものとする。
(1) 日韓両国における技術専門家及び中小企業間の情報交換及び技術導入・移転
(2) 日韓両国における技術専門家及び中小企業のビジネス交流活動
(3) 日本の技術専門家と韓国企業とのマッチング
(4) 日韓両国における大学及び企業等の相互交流、展示会及びセミナー等の開催
(5) 大学等の研究成果を活用した産学連携による共同開発、研究者の人的交流及び技術・人的マッチング事業の開催
(6) 上記のほか、日韓両国における経済交流の活性化及び技術の発展に必要な事業の実施

2. 徳島大学と韓日財団は、この協定による協力の実施のため、国立大学法人徳島大学パラダイムシフト創出ネットワーク（TPAS-Net）を有効利用するものとする。

3. この協定は、締結の日から３年間効力を有するものとする。

4. この協定の内容を変更する必要がある場合は、双方協議の上、これを行うものとする。

5. この協定に定めのない事項又はこの協定の実施に関し必要な事項は、双方協議の上、定めるものとする。

この協定の締結を証するため、この協定書を日本語及び韓国語で各２通作成し、双方署名の上、各１通を保有するものとする。

2010年　1月　20日

国立大学法人徳島大学
学長　青野　敏博

財団法人韓日産業・技術協力財団
専務理事　智　光　薫

（出典：国立大学法人徳島大学と財団法人韓日産業・技術協力財団との産業・技術・人的交流協力に関する協定書）

資料3－2－4　韓日財団との協定締結に係る新聞記事

徳島新聞『日韓技術交流促進へ連携　徳島大学と韓日財団　きょう協定を締結　仲介システム相互利用』平成 22 年 1 月 20 日朝刊 23 面（記事総文字数 647 文字）

（出典：平成 22 年 1 月 20 日徳島新聞 23 面　記事より一部抜粋）

資料3－2－5　国立大学法人徳島大学シーズ集 2009（英語版）

英語版の表紙と目次（掲載特許シーズ: 29 件, 研究シーズ:37 件）

（出典：「国立大学法人徳島大学シーズ集 2009（英語版）」抜粋）

資料3－2－6　ロシアにおいて特許登録した本学の発明

登録番号	2355023
登録日	2009 年5月 10 日
国名	ロシア
名称	連携型知財管理システムによる知財創出支援方法，サブライセンス管理機能付きの情報提供システムおよびコンピュータプログラム

（出典：研究国際部産学連携・研究推進課調べ）

資料3－3－1　卒業留学生同窓会(中国)記事，卒業留学生同窓会(韓国)記事

（出典：徳島大学ホームページより抜粋）

資料3－3－2　第5回国際展開推進シンポジウムのプログラム

第 5 回徳島大学国際展開推進シンポジウム

「母国で振り返る私の徳島大学留学生時代」

企画：徳島大学国際連携推進室，国際センター

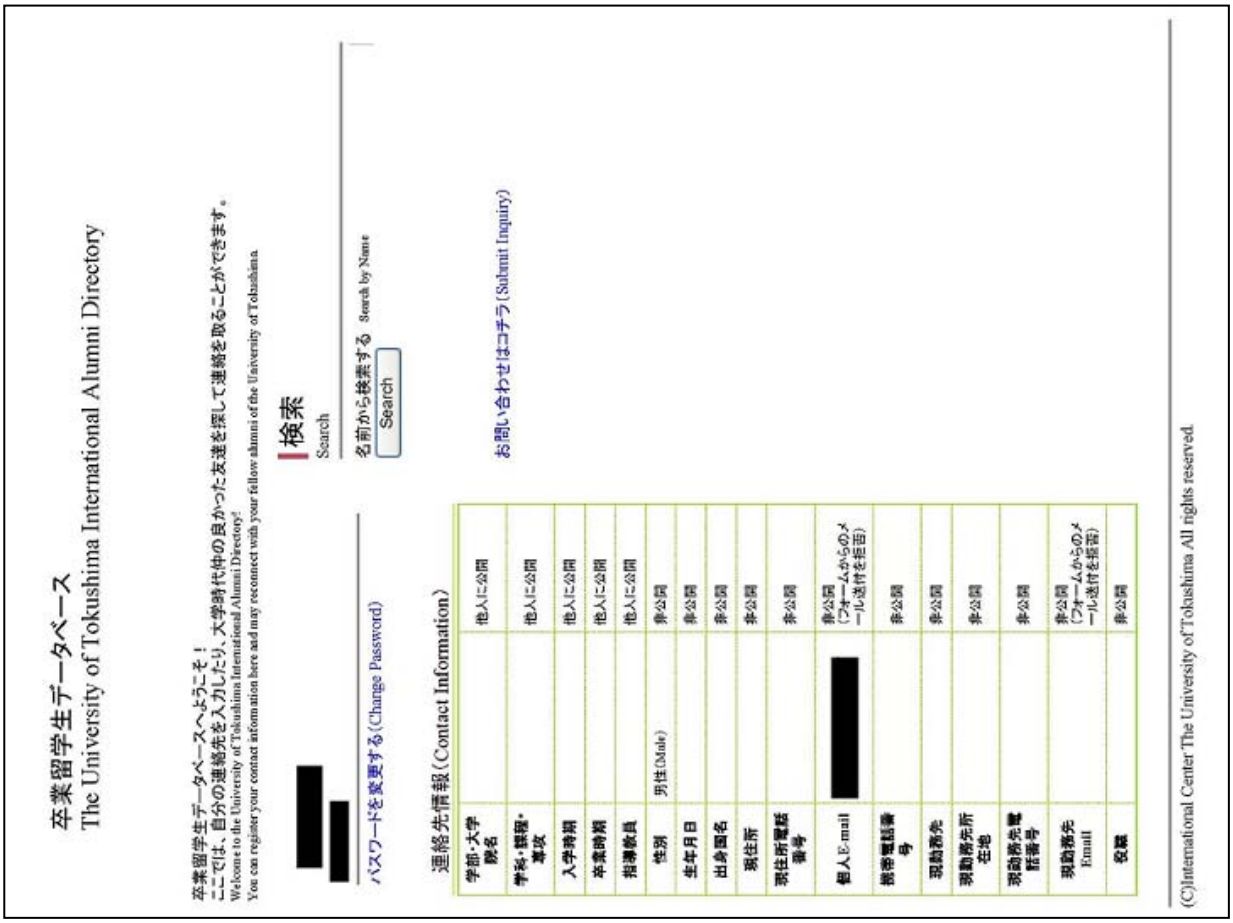
期日：平成 21 年 3 月 2 日（月）午後 3 時～5 時 30 分

場所：阿波観光ホテル 4 階ホール

「私にとって徳島は？」	辛　道勲氏（韓国）
「徳島との縁」	符　泳　氏（中国）
「私の研究生活の始まり徳島大学」	李　海衡氏（韓国）
「成功＝幸運＋努力　-徳島から学んだこと-」	満　志偉氏（中国）

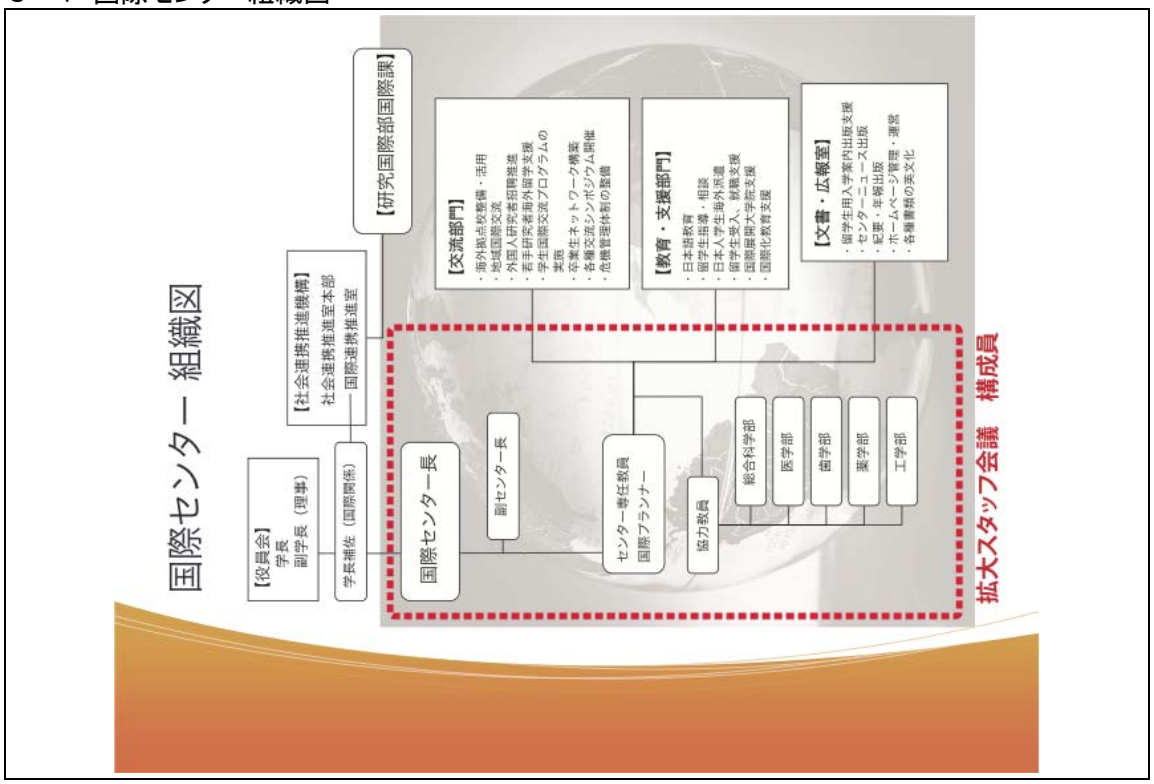
（出典：「第 5 回国際展開推進シンポジウム」ポスターより記載内容を抜粋）

資料3－3－3　Web 版徳島大学卒業留学生同窓会名簿（卒業留学生データベース）



（出典：卒業留学生データベースのトップページ）

資料3－3－4　国際センター組織図



（出典：徳島大学国際センターホームページより，拡大スタッフ会議のメンバーを追加記載）

資料3－3－5　国際センター拡大スタッフ会議開催通知

拡大スタッフ会議の開催について（通知）

細井国際センター長　様
国際センター教員　　各位
協力教員　　各位
国際課　　各位

下記のとおり拡大スタッフ会議を開催します。ご出席方よろしくお願いします。なお，欠席される方はお知らせくださるようお願いします。

国際課課長補佐内海 tel.6220

記

日　　時　　平成２１年７月２９日(水)１６時３０分
場　　所　　日亜会館２Ｆ講義室１
議　　題
1　留学生住宅総合補償の機関補償の取り扱いについて
2　康楽賞の推薦について
3　第二期中期目標期間における中期目標・中期計画（素案）に基づく年度計画等の作成について
4　コンピュータソフトウェアの適正な管理の徹底について
5　日韓理工系学部留学生推進フェアーの開催について
6　総科からの教員控室・教室の備品の移動について
7　センターニュースレターについて
8　日亜会館講義室の使用について
9　秋期日本語研修コースの運営について
10　卒業生の住所等について
11　その他
報告事項
1　センターパンフレットについて
2　センター HP 進捗状況について
3　施設委員会報告
4　アジア人財コースの今後の予定について
5　日本語シンポジウムについて
6　日本語弁論大会について
7　本文化体験交流会について
8　日韓理工系学部留学生事業協議会の開催について
9　その他

以　　上

（出典:国際センター拡大スタッフ会議開催通知）

資料3－3－6　国際プランナーによる平成 21 年度主要業務のまとめ

国際センター国際プランナーによる 21 年度主要業務のまとめ

(1)　国際化推進のための企画・運営関係業務

<留学生のリクルートに関する事項>

A. 留学生の本学入学に至る経緯と入学後の意識等を把握し、今後の効果的なリクルート計画の参考資料とするための留学生実態調査(案)の調査票(日本語版案及び英語版案)を作成した。（平成 21 年 9 月）

B. 国費留学生学部進学説明会(東京外国語大学)における徳島大学紹介と留学説明会の実施とそれに伴う大学紹介スライド(PowerPoint)の作成をした。(平成 21 年 9 月～10 月)

C. 本学英語ホームページにおける留学生アドミッションページ(案)の作成を実施中。(平成 21 年 9 月～)

・ 広報委員会や各部局、入試課等各方面との調整より当初の案件の全面改訂を行った。

D. マレーシア留学フェア及びマレーシアにおける近年の日本留学志望者や日本との学術交流の傾向を調査するための日本関連機関訪問の準備を行った。(平成 21 年 9 月～12 月)

E. 入学志望者からの質問や要望への対応（随時）

<交流協定校との連絡調整と新規開拓に関する事項>

A. マレーシアサインズ大学との大学間協定締結および協定調印式のための訪問に関わる連絡調整、協定書関連業務、(平成 21 年 9 月～12 月)

B. 本学 60 周年記念式典招待大学との連絡調整と関連英文書作成、および来日時の対応を行った。(平成 21 年 9 月～11 月)

C. 慶北大学校(韓国)との協定更新の連絡調整と改訂への対応を継続中。(平成 22 年 2 月～)

・ 英文協定書への変更に関わる英文協定書作成と慶北大学との連絡と確認を行った。

・ 英文一本化と一部内容改訂の申し出があったことと、旧協定の日本語版と韓国版の内容に相違点があったため相手先と各方面との調整に時間を要している。

D. 各協定校との連絡調整および関連文書とその英文雛型を作成した。(随時)

<外部資金獲得に関する事項>

A. 日本国外および国際機関による研究助成金情報の収集と一覧化業務を行った。(平成 21 年 12 月～)

・ 本学の海外助成金に関する情報提供が未着手であったため、外部資金獲得機会の拡大のための新規業務として提案中。

(2)　留学生に対する支援関係業務

<留学卒業生同窓会設立及び同窓会ネットワークの充実に係る業務>

A. 韓国同窓会設立支援と本学からの設立式出席に関する情報収集を行った。(平成 21 年 9 月～12 月)

B. 卒業留学生ネットワーク開設準備のための関連文書作成とその雛型を作成した。(平成 21 年 10 月)

<学内文書の英語化>

A. 各担当者が所有する留学生宿舎の入居の手引き、各種申請書、各種案内などの留学生関連文書を収集、仕分けし、英文化未対応のものを英文化し、既存の英文に関しては校正を行った。（平成 11 月～12 月）

(3)　その他、大学の国際化推進のために必要な業務

A. マレーシアサインズ大学での学長スピーチと挨拶及びプレス対応原稿(案)作成、運航に関する諸業務を行った。(平成 21 年 10 月～12 月)

B. PMO 国際連携推進ワーキンググループへ参加し、本学の国際連携と国際業務に関する事項の検討や実施を国際課と共に行っている。(平成 21 年 10 月～)

C. PMO 事業に関する海外研修への参加とそれに伴う情報収集と計画案作成を行った。(平成 21 年 10 月～　平成 22 年 1 月)

（出典:国際センター国際プランナー業務記録より）